

アレルギー疾患に関する3歳児全都調査 (平成21年度)

報告書

平成22年3月



東京都福祉保健局

はじめに

東京都は、子供のアレルギー疾患の実態を把握するため、平成 11 年度から 5 年ごとに 3 歳児全都調査を実施しており、平成 21 年度の本調査は、初回の調査からちょうど 10 年目になります。

この 10 年間、3 歳までに何らかのアレルギー疾患の診断を受けた子供は約 4 割で推移しているものの、今回の調査では食物アレルギーとアレルギー性鼻炎が増加傾向にあることが分かりました。

東京都は、これまで、アレルギー疾患を持つ子供の保護者などの都民の方に対する講演会を実施するなど、正しい知識の普及啓発に努めてきました。また、保健や保育などの関係者向けに研修を実施し、アレルギー疾患の相談等に関わる人材の育成にも取り組んできました。

アレルギー疾患の原因は必ずしも明らかになっていませんが、子供たち一人ひとりが健やかに成長できるよう、その対策を効果的に推進することが重要です。

このたびの調査の結果は、今後、アレルギー疾患対策を更に進めていくための基礎資料として、有効に活用していきます。各区市町村や関係者の皆様にもお役立ていただければ幸いです。

終わりに、調査項目や結果のとりまとめなどを御指導いただいた東京都アレルギー性疾患対策検討委員会乳幼児アレルギー疾患調査検討部会の委員の皆様と、調査に御協力いただいた保護者の皆様、区市町村の関係者に厚くお礼申し上げます。

平成 22 年 3 月

東京都福祉保健局健康安全部環境保健課

目 次

第 1 調査の概要	3
1 調査目的	3
2 調査対象及び方法	3
3 回収状況	3
4 調査項目	3
5 調査上の分類と定義	4
6 数表の記号及び図表の見方等	6
第 2 結果の概要	9
1 対象者の概要	9
2 アレルギー疾患の状況	10
(1) アレルギー疾患のり患状況	10
(2) アレルギー疾患の合併	11
(3) ぜん息・ぜん鳴の症状と診断	12
(4) 臨床症状に基づく発作型分類	14
(5) ぜん息・ぜん鳴の症状が起きた時期、ぜん息の診断の時期	15
(6) ぜん息で使用している薬	16
(7) 食物アレルギーの症状と診断	18
(8) 食物アレルギーの症状が起きた時期、食物アレルギーの診断の時期	19
(9) 食物アレルギーで出現した症状	20
(10) 食物アレルギーの原因食物	22
(11) 食物アレルギーに対する制限・除去食への対応	24
(12) アトピー性皮膚炎の症状と診断	26
(13) アレルギー性鼻炎の症状と診断	27
(14) アレルギー性結膜炎の症状と診断	28
3 通所（園）状況	29
4 家族のアレルギー疾患のり患状況	30
5 アレルギー疾患に関する要望	31
(1) 行政（都や区市町村）に対する希望	31
(2) 医療機関に対する希望	32

(3) 保育所・幼稚園・認定こども園に対する希望	33
(4) 施設・事業者（レストラン、食品製造販売業者等）に対する希望	34

第3 調査結果のまとめ..... 37

1 対象者の概要.....	37
2 アレルギー疾患の状況	37
(1) アレルギー疾患のり患状況	37
(2) 各アレルギー疾患のり患状況	38
ア ぜん息.....	38
(ア) 診断.....	38
(イ) 使用している薬.....	38
イ 食物アレルギー	38
(ア) 診断	38
(イ) 出現した症状.....	38
(ウ) 原因食物	39
(エ) 制限・除去食への対応.....	39
ウ アトピー性皮膚炎	39
(ア) 診断	39
エ アレルギー性鼻炎	39
(ア) 診断	39
オ アレルギー性結膜炎	39
(ア) 診断	39
(3) アレルギー疾患の合併.....	39
3 通所（園）状況	40
4 家族のアレルギー疾患のり患状況	40
5 アレルギー疾患に関する要望	40
6 今後の方向性.....	40

第4 調査の結果..... 45

資料（調査票）..... 65

第1 調査の概要

第1 調査の概要

1 調査目的

都内の3歳児におけるアレルギー疾患の罹患状況を把握し、平成11年度及び平成16年度に実施した同様の調査結果と比較する。また、3歳児の保護者における行政（都や区市町村）等へのアレルギー疾患対策に対するニーズを把握し、今後、東京都がアレルギー疾患対策を進めていく際の基礎資料として活用する。

2 調査対象及び方法

平成21年10月に都内区市町村で実施した3歳児健康診査の受診者及びその保護者を対象とした。

区市町村に協力を依頼し、3歳児健康診査の会場で無記名による自記式調査票を保護者7,247人に配布し、郵送にて回収を行った。

3 回収状況

有効回答数は2,912人（有効回答率40.2%）

4 調査項目

基本属性、アレルギー疾患の状況、通所（園）状況、アレルギー疾患に関する要望を調査項目とした。

調査項目

項目	内容				
基本属性 (対象者の概要)	性別				
	住所（区部 市・郡部 島部）				
アレルギー疾患の 状況	本人 の 患 状 況	親 ・ 兄 弟 姉 妹 の 患 状 況	症 状 の 有 無	医 師 の 診 断	ぜん息
					食物アレルギー
					アトピー性皮膚炎
					アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）
					アレルギー性結膜炎（花粉症を含む）
					じんましん
その他のアレルギー					
通所（園）状況	保育所・幼稚園・認定こども園の通所（園）状況				
アレルギー疾患に 関する要望	行政（都や区市町村）に対する希望				
	医療機関に対する希望				
	保育所・幼稚園・認定こども園に対する希望				
	施設・事業者（レストラン、食品製造販売業者等）に対する希望				

5 調査上の分類と定義

ぜん息・ぜん鳴、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、じんましん、その他のアレルギー疾患における症状と診断の定義を下記に示す。

「症状あり」の定義

分類	定義	(参考) 平成11年度・平成16 年度調査の定義
ぜん息・ぜん鳴	これまでに、咳こんだり息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」するなど、苦しそうな症状が、2回以上あった者	同左
食物アレルギー	これまでに、食事が原因と思われるアレルギー症状を起こした者	同左
アトピー性皮膚炎	これまでに、アトピー性皮膚炎があった者（皮膚の乾燥とかゆみを伴う湿疹をくりかえす）	同左
アレルギー性鼻炎 （花粉症を含む）	これまでに、アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）の症状があった者（くしゃみや鼻水、鼻づまりが長引く）	同左
アレルギー性結膜炎 （花粉症を含む）	これまでに、アレルギー性結膜炎（花粉症を含む）の症状があった者（目のかゆみや充血が長引く）	同左
じんましん	これまでに左記の「アレルギー疾患」の症状があった者	同左
その他のアレルギー疾患		

「診断あり」の定義

分類	定義	(参考) 平成16年度調査 の定義	(参考) 平成11年度調査 の定義
ぜん息	症状があり、これまでに「ぜん息」、「ぜん息性気管支炎」又は「小児ぜん息」と医師に診断された者	同左	症状があり、これまでに「ぜん息」、「ぜん息様気管支炎」又は「小児ぜん息」と医師に診断された者
食物アレルギー	症状があり、これまでに、左記の「アレルギー疾患」であると医師に診断された者	同左	同左
アトピー性皮膚炎			
アレルギー性鼻炎 （花粉症を含む）			
アレルギー性結膜炎 （花粉症を含む）			
じんましん			
その他のアレルギー疾患			

臨床症状に基づく発作型分類

分類	定義
間欠型	セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、年に数回、季節的にあった。ときに呼吸困難を伴うこともあったが、そのときだけ気管支を広げる薬（ β_2 刺激薬）を使い、短期間で症状は改善した。
軽症持続型	セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、月1回以上、週1回未満あった。ときに呼吸困難を伴うこともあったが、長く続くことはなく、日常生活が障害されることは少なかった。
中等症持続型	セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、週1回以上あったが、毎日続くほどではなかった。ときにその症状により日常生活や睡眠が障害されることがあった。
重症持続型 1	セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、毎日あった。週に1～2回、その症状により日常生活や睡眠が障害されることがあった。
重症持続型 2	治療を受けても重症持続型 1 の状態が続いた。しばしば夜間に時間外受診し、入退院をくり返した。

「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2002」から一部抜粋

ATS-DLDとISSACの問診用紙による診断の定義

	定義
ATS-DLD	<ol style="list-style-type: none"> 喘息：以下の1)～6)の項目に「はい」と回答した者 喘息寛解：以下の1)～5)の項目に「はい」と回答し、かつ6)の項目に「いいえ」と回答した者 <ol style="list-style-type: none"> これまで胸がゼーゼーとか、ヒューヒューして、急に胸が苦しくなる発作を起こしたことがある。 そのような発作は今まで2回以上ある。 医師に喘息、喘息様気管支炎または小児喘息といわれたことがある。 そのとき、息をするとゼーゼーとかヒューヒューという音がした。 そのとき、胸がゼーゼーとかヒューヒューして息が苦しくなった。 この2年間に発作（症状）を起こしたことがあるか、喘息、喘息様気管支炎、または小児喘息で治療を受けたことがある。 喘鳴：以下の1)～3)の項目に「はい」と回答し、かつ喘息、喘息寛解に該当する者を除いた者 <ol style="list-style-type: none"> 息をするとき、ゼーゼーとか、ヒューヒューという音がすることがある。 それは、かぜをひいたときである。 この2年間に、胸がゼーゼーとかヒューヒューすることが2回以上ある。
ISSAC	<ol style="list-style-type: none"> 喘鳴（既往） <ul style="list-style-type: none"> あなた（のお子さん）はいままで、胸がゼーゼー、またはヒューヒューいったことがありますか。 喘鳴（現在） <ul style="list-style-type: none"> あなた（のお子さん）は最近12か月間に、胸がゼーゼー、またはヒューヒューいったことがありますか。 医師の診断（喘息累積） <ul style="list-style-type: none"> あなた（のお子さん）はいままで喘息といわれたことがありますか。

「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2008」から一部抜粋

6 数表の記号及び図表の見方等

本報告書の数表の記号及び図表の見方、注意点等を以下に示す。

- その事象が出現する可能性を持っているが、統計上出現しなかった場合 —
- 平成 21 年度調査における各質問ごとの有効回答数 n
- 平成 16 年度調査結果と比較し、上昇を表す場合 △
- 平成 16 年度調査結果と比較し、低下を表す場合 ▼
- この報告書に掲載の数値は四捨五入してあるため、総数と内訳の合計が一致しない場合がある。
- 平成 16 年度調査及び平成 21 年度調査の結果は、平成 11 年度調査と集計方法が異なるため、単純比較はできない。
- 「これまでに（各アレルギー疾患の）症状があった者」とは、「ぜん息・ぜん鳴」、「食物アレルギー」、「アトピー性皮膚炎」、「アレルギー性鼻炎」、「アレルギー性結膜炎」、「じんましん」、「その他のアレルギー疾患」の症状があったと保護者が判断したものであることから、これらの症状の有無がアレルギー疾患の有無と同義でないことに注意する必要がある。

第2 結果の概要

第2 結果の概要

1 対象者の概要

調査票を配布した対象者 7,247 人のうち、2,912 人（40.2%）から回答を得た。

回答数の男女別の割合は、男子 51.5%、女子 47.7%であった（表1）。また、地区別の回答数の割合は、「区部」が 62.0%、「市・郡部」が 37.3%、「島部」が 0.8%であった（表2）。

表1 回答数及び有効回答率（性別）

	平成21年度	
	人数	%
総数	2,912	100.0
男子	1,500	51.5
女子	1,390	47.7
無回答	22	0.8

（参考）平成11年度調査、平成16年度調査

	平成11年度	平成16年度
	%	%
総数	100.0	100.0
男子	51.1	51.9
女子	48.5	48.1
無回答	0.4	0.0

表2 回答数及び有効回答率（地区別）

	平成21年度	
	人数	%
総数	2,912	100.0
区部	1,804	62.0
市・郡部	1,086	37.3
島部	22	0.8
無回答	0	0.0

（参考）平成11年度調査、平成16年度調査

	平成11年度	平成16年度
	%	%
総数	100.0	100.0
区部	62.3	64.6
市・郡部	37.4	34.7
島部	0.0	0.4
無回答	0.2	0.3

2 アレルギー疾患の状況

(1) アレルギー疾患のり患状況

これまでに何らかのアレルギー疾患の症状があった児の割合は 56.8%、診断を受けた児の割合は 38.8%であり、平成 16 年度調査と比べると、症状があった児、診断を受けた児ともに増加した（表 3）。

これまでに症状があった児の割合を各疾患別にみると、平成 16 年度調査と比べ、「ぜん息・ぜん鳴」以外の全ての疾患で増加した。また、診断を受けた児の割合を各疾患毎にみると、平成 16 年度調査と比べ、「ぜん息」は低下、「アトピー性皮膚炎」と「アレルギー性結膜炎」は大きな増減はなくほぼ横ばい、それ以外の各疾患は増加した（表 4）。

表 3 何らかのアレルギー疾患のり患状況

		平成21年度		(参考) 平成11年度調査、平成16年度調査		
		人数	%	平成11年度	平成16年度	
				%	%	
何らかの アレルギー	症状あり (n=2,912)	1,655	56.8	41.9	51.5	
	診断あり (n=2,912)	1,131	38.8	36.8	36.7	

表 4 各アレルギー疾患のり患状況の推移
症状あり

		平成21年度		(参考) 平成11年度調査、平成16年度調査		
		人数	%	平成11年度	平成16年度	
				%	%	
ぜん息・ぜん鳴	(n=2,898)	529	18.3	9.5	19.4	
食物アレルギー	(n=2,869)	619	21.6	9.4	15.6	
アトピー性皮膚炎	(n=2,791)	641	23.0	18.0	20.5	
アレルギー性鼻炎	(n=2,762)	548	19.8	7.5	14.6	
アレルギー性結膜炎	(n=2,712)	211	7.8	5.1	6.9	
じんましん	(n=2,761)	567	20.5	15.0	17.1	
その他の アレルギー疾患	(n=2,805)	174	6.2	3.7	3.8	

診断あり

		平成21年度		(参考) 平成11年度調査、平成16年度調査		
		人数	%	平成11年度	平成16年度	
				%	%	
ぜん息	(n=2,841)	264	9.3	7.9	10.5	
食物アレルギー	(n=2,863)	411	14.4	7.1	8.5	
アトピー性皮膚炎	(n=2,760)	437	15.8	16.6	15.3	
アレルギー性鼻炎	(n=2,713)	300	11.1	6.1	9.2	
アレルギー性結膜炎	(n=2,666)	129	4.8	4.6	4.5	
じんましん	(n=2,715)	307	11.3	11.9	8.7	
その他の アレルギー疾患	(n=2,664)	123	4.6	3.0	2.2	

(2) アレルギー疾患の合併

各アレルギー疾患の診断を受けた児について、他のアレルギー疾患との合併状況をみると、「アレルギー性結膜炎」の診断を受けた児が「アレルギー性鼻炎」を合併している割合が 47.3%と高かった。また、「じんましん」の診断を受けた児が「食物アレルギー」を合併している割合も 45.9%と高かった（表5）。

表5 各アレルギー疾患の合併状況（複数回答）

診断 合併	ぜん息 (n=264)		食物 アレルギー (n=411)		アトピー性 皮膚炎 (n=437)		アレルギー 性鼻炎 (n=300)		アレルギー 性結膜炎 (n=129)		じんましん (n=307)		その他の アレルギー 疾患 (n=123)	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ぜん息の合併			75	18.2	77	17.6	51	17.0	23	17.8	46	15.0	42	34.1
食物アレルギーの合併	75	28.4			181	41.4	76	25.3	37	28.7	141	45.9	78	63.4
アトピー性皮膚炎の合併	77	29.2	181	44.0			90	30.0	42	32.6	108	35.2	44	35.8
アレルギー性鼻炎の合併	51	19.3	76	18.5	90	20.6			61	47.3	77	25.1	30	24.4
アレルギー性結膜炎の合併	23	8.7	37	9.0	42	9.6	61	20.3			36	11.7	16	13.0
じんましんの合併	46	17.4	141	34.3	108	24.7	77	25.7	36	27.9			42	34.1
その他のアレルギー疾患の合併	42	15.9	78	19.0	44	10.1	30	10.0	16	12.4	42	13.7		

(3) ぜん息・ぜん鳴の症状と診断

これまでにぜん息・ぜん鳴の症状があった児の割合は、男子 20.9%、女子 15.4%、ぜん息の診断を受けた児の割合は、男子 11.3%、女子 7.0%であり、症状があった児、診断を受けた児ともに男子が女子に比べ高かった。平成 16 年度調査と比べると、症状、診断ともに減少した（表 6、表 7）。

ATS-DLD 方式に概ね準拠した設問による「ぜん息」及び「ぜん鳴」は、平成 11 年度調査と比べ増加した（表 8）。

ISAAC 方式に概ね準拠した設問では、「ぜん鳴（現在）」は 16.7%、「ぜん鳴（既往）」が 23.5%、「医師の診断（ぜん息累積）」が 11.9%であった（表 9）。

表 6 ぜん息・ぜん鳴の有症者数及び有症率

	平成21年度	
	人数	%
(症状あり)		
男子 (n=1,496)	313	20.9
女子 (n=1,381)	213	15.4

(参考) 平成11年度調査、平成16年度調査

	平成11年度	平成16年度
	%	%
男子	11.5	21.9
女子	7.2	16.8

表 7 ぜん息の診断状況

	平成21年度	
	人数	%
(診断あり)		
男子 (n=1,469)	166	11.3
女子 (n=1,352)	95	7.0

(参考) 平成16年度調査

	平成16年度
	%
男子	12.5
女子	8.4

注) 平成 11 年度については集計結果がないため比較できない

表8 ぜん息、ぜん鳴の症状と診断

(n=2,898)

(参考) 平成11年度調査

		平成21年度		平成11年度		
		人数	%	%		
ぜん息 (症状あり且つ診断あり)	現症 (2年以内に症状あり)	252	8.7	ぜん息 (症状あり且つ診断あり)	現症 (2年以内に症状あり)	7.2
	既往 (2年より前に症状あり)	9	0.3		既往 (2年より前に症状あり)	0.7
	計	261	9.0		計	7.9
ぜん鳴 (症状あり且つ診断なし)	現症 (2年以内に症状あり)	226	7.8	ぜん鳴 (症状あり且つ診断なし)	現症 (2年以内に症状あり)	1.2
	既往 (2年より前に症状あり)	28	1.0		既往 (2年より前に症状あり)	0.3
	計	254	8.8		計	1.5

注1) ATS-DLD方式に概ね準拠 (P 5 参照)

注2) 平成16年度については集計結果がないため比較できない

表9 ぜん鳴とぜん息累積

	人数	%
ぜん鳴 (現在) (n = 2,772)	464	16.7
ぜん鳴 (既往) (n = 2,900)	682	23.5
医師の診断 (ぜん息累積) (n = 2,851)	338	11.9

注) ISAAC方式に概ね準拠 (P 5 参照)

(4) 臨床症状に基づく発作型分類

ぜん息の診断を受けた児の、この1年間の発作型は、「間欠型」が78.4%と最も高く、次いで、「軽症持続型」11.2%が高かった。平成16年度調査と比べると、「間欠型」と「軽症持続型」の割合が増加し、「中等症持続型」、「重症持続型1」、「重症持続型2」の割合が減少した(表10)。

表10 ぜん息の重症度分類

	平成21年度		(参考) 平成16年度調査	
	人数	%	平成16年度	
			%	
総数	464	100.0	総数	100.0
間欠型	364	78.4	間欠型	74.3
軽症持続型	52	11.2	軽症持続型	8.1
中等症持続型	31	6.7	中等症持続型	8.4
重症持続型1	15	3.2	重症持続型1	5.3
重症持続型2	2	0.4	重症持続型2	3.9

注1) 保護者の申し出による症状の程度・頻度から発作型を分類

注2) 平成11年度については集計結果がないため比較できない

(5) ぜん息・ぜん鳴の症状が起きた時期、ぜん息の診断の時期

ぜん息・ぜん鳴の症状が初めて起きた月齢は、7ヶ月から12ヶ月までが28.0%と最も高く、ぜん息の診断を受けた月齢は、19ヶ月から24ヶ月までが22.9%と最も高かった(表11)。

表11 ぜん息・ぜん鳴の症状が起きた時期及び診断時期

(月齢)	症状出現		診断	
	人数	%	人数	%
総数	508	100.0	253	100.0
0～6ヶ月	76	15.0	14	5.5
7～12	142	28.0	54	21.3
13～18	108	21.3	35	13.8
19～24	90	17.7	58	22.9
25～30	63	12.4	53	20.9
31～36	27	5.3	33	13.0
37～42	2	0.4	6	2.4

(6) ぜん息で使用している薬

ぜん息と診断され、医師から薬を処方されている児は 47.0%であった (表 12)。

使用しているぜん息治療薬の種類は、「ロイコトリエン受容体拮抗薬 (leukotriene receptor antagonist : LTRA)」が 91.1%と最も高く、次いで、「吸入ステロイド薬 (inhaled corticosteroid : ICS)」(31.5%)、「経皮吸収型 β_2 刺激薬」(12.9%) の順で高かった (表 13)。

使用しているぜん息治療薬の種類を重症度分類別にみると、間欠型から中等症持続型では「LTRA の単独使用」の割合が高かった。重症持続型 1 では、「LTRA とその他の薬の併用使用」が 3 名と最も多く、重症持続型 2 では、「ICS の単独使用」及び「ICS、LTRA、その他の薬の併用使用」が各 1 名であった (表 14)。

薬の使用状況は、「ほぼできている」と「時々忘れるが、たいていできている」を合わせると 91.0%であり、「半分くらいできている」、「あまりしていない」、「全くしていない」は合わせて 9.1%であった (表 15)。

表12 治療薬の処方の有無

	人数	%
総数	264	100
ある	124	47.0
ない	140	53.0

表13 使用している治療薬の種類 (複数回答)

(n = 124)

	人数	%
吸入ステロイド薬 (ICS)	39	31.5
ロイコトリエン受容体拮抗薬 (LTRA)	113	91.1
その他の抗アレルギー薬	14	11.3
テオフィリン薬	3	2.4
吸入 β_2 刺激薬	9	7.3
経口 β_2 刺激薬	8	6.5
経皮吸収型 β_2 刺激薬	16	12.9
クロモグリク酸ナトリウム	11	8.9

注) 「その他の抗アレルギー薬」には、化学伝達物質遊離抑制薬、ヒスタミン H_1 拮抗薬、 T_h2 サイトカイン阻害薬、を含む。

表14 重症度分類別の治療薬の使用状況

	間欠型 (n=75)		軽症持続型 (n=18)		中等症持続型 (n=9)		重症持続型1 (n=9)		重症持続型2 (n=2)	
	治療薬	人数	治療薬	人数	治療薬	人数	治療薬	人数	治療薬	人数
1位	LTRA	42	LTRA	6	LTRA	3	LTRA + その他の薬	3	ICS	1
2位	LTRA + その他の薬	14	ICS + LTRA	4	ICS + LTRA	3	ICS + LTRA	2	ICS + LTRA + その他の薬	1
3位	ICS + LTRA	10	ICS + LTRA + その他の薬	4	LTRA + その他の薬	2	その他の薬	2	/	

注) 「その他の薬」には、化学伝達物質遊離抑制薬、ヒスタミンH₁拮抗薬、Th2サイトカイン阻害薬、テオフィリン薬、吸入β₂刺激薬、経口β₂刺激薬、経皮吸収型β₂刺激薬、クロモグリク酸ナトリウム、を含む。

表15 処方された治療薬の使用状況

(n=122)

	人数	%
ほぼできている	81	66.4
たいていできている	30	24.6
半分くらいできている	5	4.1
あまりしていない	3	2.5
全くしていない	3	2.5

(7) 食物アレルギーの症状と診断

これまでに食物アレルギーの症状があった児の割合は、男子 23.6%、女子 19.3%、食物アレルギーの診断を受けた児の割合は、男子 16.9%、女子 11.8%であり、症状があった児、診断を受けた児ともに男子が女子に比べ高かった。平成 16 年度調査と比べると、症状、診断ともに増加した（表 16、表 17）。

表16 食物アレルギーの有症者数及び有症率

(症状あり)	平成21年度	
	人数	%
男子 (n=1,485)	351	23.6
女子 (n=1,362)	263	19.3

(参考) 平成11年度調査、平成16年度調査

	平成11年度	平成16年度
	%	%
男子	11.2	17.2
女子	7.6	13.8

表17 食物アレルギーの診断状況

(診断あり)	平成21年度	
	人数	%
男子 (n=1,481)	250	16.9
女子 (n=1,360)	160	11.8

(参考) 平成16年度調査

	平成16年度
	%
男子	10.0
女子	6.9

注) 平成 11 年度については集計結果がないため比較できない

(8) 食物アレルギーの症状が起きた時期、食物アレルギーの診断の時期

食物アレルギーの症状が初めて起きた月齢は、7ヶ月から12ヶ月までが41.2%と最も高く、食物アレルギーの診断を受けた月齢も、7ヶ月から12ヶ月までが44.3%と最も高かった(表18)。

表18 食物アレルギーの症状が起きた時期及び診断時期

(月齢)	症状出現		診断	
	人数	%	人数	%
総数	607	100.0	409	100.0
0～6ヶ月	177	29.2	139	34.0
7～12	250	41.2	181	44.3
13～18	67	11.0	34	8.3
19～24	50	8.2	28	6.8
25～30	31	5.1	14	3.4
31～36	30	4.9	12	2.9
37～42	2	0.3	1	0.2

(9) 食物アレルギーで出現した症状

食物アレルギーで出現した症状は、これまでに食物アレルギーの症状があった児では、「皮膚の湿疹」(90.8%)が最も高く、次いで「目のはれ」(19.7%)、「口のはれ」(19.1%)の順で高かった。また、食物アレルギーの診断を受けた児でも、「皮膚の湿疹」(92.9%)が最も高く、次いで「目のはれ」(25.1%)、「口のはれ」(20.4%)の順で高かった(表19、表20)。

これまでに食物が原因と思われるアレルギーの症状を起こしたことがある児のうち、この1年間に食物アレルギーの症状があった児の割合は31.1%であり(表21)、そのうち、この1年間にショック症状を起こした児の割合は10.9%であった(表22)。

表19 食物アレルギーの出現症状(これまでに症状があった児) (複数回答)

(n=619)

(参考) 平成11年度調査、平成16年度調査

	平成21年度			平成11年度	平成16年度
	人数	%		%	%
皮膚の湿疹	562	90.8	皮膚の湿疹	84.8	90.1
目のはれ	122	19.7	目のはれ	11.0	10.8
口のはれ	118	19.1	口のはれ	10.0	12.9
腹痛	94	15.2	腹痛	8.3	10.5
ぜん鳴・呼吸困難	51	8.2	ぜん鳴	5.6	7.2
鼻水	35	5.7	鼻水	3.7	4.6
ショック症状	17	2.7	ショック症状	1.0	0.8
その他	13	2.1	その他	6.8	0.8

注) 出現症状は、保護者の申し出によるもの

表20 食物アレルギーの出現症状（これまでに症状があり、診断を受けた児）
（複数回答）

	(n=411)			(参考) 平成16年度調査
	平成21年度			平成16年度
	人数	%		%
皮膚の湿疹	382	92.9	皮膚の湿疹	91.6
目のはれ	103	25.1	目のはれ	15.1
口のはれ	84	20.4	口のはれ	16.8
腹痛	71	17.3	腹痛	13.7
ぜん鳴・呼吸困難	48	11.7	ぜん鳴	12.0
鼻水	30	7.3	鼻水	7.6
ショック症状	16	3.9	ショック症状	1.4
その他	8	1.9	その他	1.4

注1) 出現症状は、保護者の申し出によるもの

注2) 平成11年度については集計結果がないため比較できない

表21 この1年間の食物アレルギーの症状の有無

	(n=610)	
	人数	%
症状あり	190	31.1
症状なし	420	68.9

表22 この1年間の食物アレルギーによるショック症状の有無と
ショック症状の回数

			(n=119)	
			人数	%
ショック症状あり			13	10.9
(再掲)	(回数)			
	1回		10	8.4
	2回		3	2.5
ショック症状なし			106	89.1

注) ショック症状の有無は保護者の申し出によるものであるため、医学的なショックの定義と一致しない場合もある

(10) 食物アレルギーの原因食物

食物アレルギーの症状が出た原因（と思われる）食物は、これまでに食物アレルギーの症状があった児では、「卵」（70.6%）が最も高く、次いで「牛乳」（26.7%）、「小麦」（9.7%）の順で高かった。また、食物アレルギーの診断を受けた児でも、「卵」（83.9%）が最も高く、次いで「牛乳」（36.3%）、「小麦」（12.9%）の順で高かった（表23、表24）。

表23 食物アレルギーの原因食物（これまでに症状があった児）（複数回答）

(n=619)

(参考) 平成16年度調査

順位	原因食物	平成21年度		順位	原因食物	平成16年度
		人数	%			%
1	卵	437	70.6	1	卵	64.8
2	牛乳	165	26.7	2	牛乳	22.4
3	△ 小麦	60	9.7	5	小麦	6.4
4	▼ いくら	57	9.2	3	いくら	10.2
5	△ えび	53	8.6	6	えび	5.8
6	▼ 大豆	40	6.5	4	大豆	7.5
7	やまいも	35	5.7	7	やまいも	5.3
8	落花生	33	5.3	8	落花生	4.9
9	さば	31	5.0	9	さば	4.6
10	そば	30	4.8	10	そば	4.0
11	▼ かに	29	4.7	10	かに	4.0
12	△ キウイ	23	3.7	13	キウイ	2.4
13	ごま	21	3.4	-	ごま	-
14	▼ 鶏肉	20	3.2	12	鶏肉	3.3
15	△ さけ	17	2.7	17	さけ	1.5
16	△ バナナ	16	2.6	19	バナナ	1.1
17	米	13	2.1	-	米	-
18	▼ 牛肉	11	1.8	14	牛肉	2.3
18	▼ いか	11	1.8	15	いか	2.1
18	▼ くるみ	11	1.8	16	くるみ	1.8
21	△ りんご	7	1.1	24	りんご	0.2
21	▼ グミ・ゼラチン	7	1.1	19	グミ・ゼラチン	1.1
23	▼ 豚肉	5	0.8	18	豚肉	1.2
24	▼ あわび	4	0.6	22	あわび	0.3
25	▼ オレンジ	3	0.5	22	オレンジ	0.3
25	▼ もも	3	0.5	21	もも	0.8
27	▼ まつたけ	1	0.2	24	まつたけ	0.2
	その他	108	17.4		その他	24.7

注1) 平成16年度は「ごま」、「米」は調査していない

注2) 平成11年度については調査票において選択する原因食物が異なっていたため比較できない

表24 食物アレルギーの原因食物（これまでに症状があり、診断を受けた児）（複数回答）

(n=411)

(参考) 平成16年度調査

順位	原因食物	平成21年度		順位	原因食物	平成16年度
		人数	%			%
1	卵	345	83.9	1	卵	83.8
2	牛乳	149	36.3	2	牛乳	35.0
3	小麦	53	12.9	3	小麦	11.5
4	いくら	35	8.5	4	いくら	10.9
5	大豆	32	7.8	5	大豆	10.6
6	△ えび	30	7.3	7	えび	6.7
7	▼ 落花生	27	6.6	6	落花生	7.6
8	△ さば	22	5.4	11	さば	4.2
9	△ やまいも	21	5.1	12	やまいも	3.9
10	▼ そば	19	4.6	8	そば	5.6
10	かに	19	4.6	10	かに	4.5
12	▼ 鶏肉	18	4.4	8	鶏肉	5.6
13	ごま	16	3.9	-	ごま	-
14	△ キウイ	14	3.4	15	キウイ	2.5
14	△ さけ	14	3.4	20	さけ	1.7
16	△ バナナ	13	3.2	17	バナナ	2.0
17	米	11	2.7	-	米	-
18	▼ くるみ	9	2.2	16	くるみ	2.2
18	▼ いか	9	2.2	14	いか	2.8
18	▼ 牛肉	9	2.2	13	牛肉	3.1
21	△ りんご	5	1.2	24	りんご	0.3
22	▼ グミ・ゼラチン	4	1.0	17	グミ・ゼラチン	2.0
23	▼ あわび	3	0.7	22	あわび	0.6
23	▼ 豚肉	3	0.7	17	豚肉	2.0
25	▼ オレンジ	2	0.5	22	オレンジ	0.6
26	▼ まつたけ	1	0.2	24	まつたけ	0.3
26	▼ もも	1	0.2	21	もも	0.8
	その他	61	14.8		その他	19.3

注1) 平成16年度は「ごま」、「米」は調査していない

注2) 平成11年度については集計結果がないため比較できない

(11) 食物アレルギーに対する制限・除去食への対応

これまでに食物が原因と思われるアレルギーの症状を起こしたことがある児のうち、「現在も原因（と思われる）食物を除去したり、制限している」と回答した保護者の割合は、食物アレルギーの診断を受けた児では79.3%であり、平成16年度調査と比べると6.6%増加した。一方、診断を受けていない児では20.7%であり、平成16年度調査と比べると6.6%減少した（表25）。「現在も除去したり、制限をしている食物」としては、「卵」（62.4%）、「牛乳」（26.8%）、「いくら」（15.3%）の順で高かった（表27）。

また、これまでに食物が原因と思われるアレルギーの症状を起こしたことがある児のうち、「過去に原因（と思われる）食物を除去したり、制限したことがあるが現在はしていない」と回答した保護者の割合は、食物アレルギーの診断を受けた児では62.1%であり、平成16年度調査と比べると9.0%増加した。一方、診断を受けていない児では37.9%であり、平成16年度調査と比べると9.0%減少した（表26）。「過去に除去したり、制限したことがある食物」は、「卵」（54.2%）、「牛乳」（15.1%）、「いくら」及び「えび」（4.1%）の順で高かった（表28）。

表25 現在も食物除去・制限を行っている児（食物アレルギーの診断の有無別）
（n=294）
（参考）平成16年度調査

	平成21年度			平成16年度
	人数	%		%
診断あり	233	79.3	診断あり	72.7
診断なし	61	20.7	診断なし	27.3

注) 平成11年度については集計結果がないため比較できない

表26 過去に食物除去・制限を行っていた児（食物アレルギーの診断の有無別）
（n=269）
（参考）平成16年度調査

	平成21年度			平成16年度
	人数	%		%
診断あり	167	62.1	診断あり	53.1
診断なし	102	37.9	診断なし	46.9

注) 平成11年度については集計結果がないため比較できない

表27 現在も除去・制限している食物
(複数回答)

(n=295)

順位	除去・制限食物	人数	%
1	卵	184	62.4
2	牛乳	79	26.8
3	いくら	45	15.3
4	小麦	36	12.2
5	落花生	35	11.9
6	そば	33	11.2
7	えび	28	9.5
8	かに	22	7.5
9	大豆	19	6.4
10	くるみ	18	6.1
11	やまいも	16	5.4
12	鶏肉	14	4.7
12	さば	14	4.7
14	キウイ	11	3.7
14	ごま	11	3.7
16	いか	10	3.4
17	あわび	7	2.4
17	米	7	2.4
19	牛肉	6	2.0
20	さけ	5	1.7
21	オレンジ	4	1.4
21	りんご	4	1.4
21	バナナ	4	1.4
24	豚肉	2	0.7
24	まつたけ	2	0.7
24	グミ・ゼラチン	2	0.7
27	もも	1	0.3
	その他	37	12.5

表28 過去に除去・制限していた食物
(複数回答)

(n=271)

順位	除去・制限食物	人数	%
1	卵	147	54.2
2	牛乳	41	15.1
3	いくら	11	4.1
3	えび	11	4.1
5	大豆	8	3.0
6	落花生	6	2.2
6	そば	6	2.2
6	さば	6	2.2
9	小麦	5	1.8
9	かに	5	1.8
9	バナナ	5	1.8
12	やまいも	4	1.5
13	キウイ	3	1.1
13	ごま	3	1.1
13	いか	3	1.1
16	さけ	2	0.7
17	もも	1	0.4
17	くるみ	1	0.4
17	鶏肉	1	0.4
17	あわび	1	0.4
17	牛肉	1	0.4
17	オレンジ	1	0.4
23	米	0	0.0
23	りんご	0	0.0
23	豚肉	0	0.0
23	まつたけ	0	0.0
23	グミ・ゼラチン	0	0.0
	その他	19	7.0

(12) アトピー性皮膚炎の症状と診断

これまでにアトピー性皮膚炎の症状があった児の割合は、男子 24.5%、女子 21.5%、アトピー性皮膚炎の診断を受けた児の割合は、男子 17.0%、女子 14.6%であり、症状があった児、診断を受けた児ともに男子が女子に比べ高かった。平成 16 年度調査と比べると、症状、診断ともに増加した（表 29、表 30）。

表29 アトピー性皮膚炎の有症者数及び有症率

	平成21年度	
	人数	%
(症状あり)		
男子 (n=1,439)	352	24.5
女子 (n=1,334)	287	21.5

(参考) 平成11年度調査、平成16年度調査

	平成11年度	平成16年度
	%	%
男子	19.7	22.0
女子	16.1	18.9

表30 アトピー性皮膚炎の診断状況

	平成21年度調査	
	人数	%
(診断あり)		
男子 (n=1,422)	242	17.0
女子 (n=1,320)	193	14.6

(参考) 平成16年度調査

	平成16年度
	%
男子	16.5
女子	14.4

注) 平成 11 年度については集計結果がないため比較できない

(13) アレルギー性鼻炎の症状と診断

これまでにアレルギー性鼻炎の症状があった児の割合は、男子 22.1%、女子 17.0%、アレルギー性鼻炎の診断を受けた児の割合は、男子 12.8%、女子 9.1%であり、症状があった児、診断を受けた児ともに男子が女子に比べ高かった。平成 16 年度調査と比べると、症状、診断ともに増加した（表 31、表 32）。

表31 アレルギー性鼻炎の有症者数及び有症率

(症状あり)	平成21年度調査	
	人数	%
男子 (n=1,432)	317	22.1
女子 (n=1,309)	223	17.0

(参考) 平成11年度調査、平成16年度調査

	平成11年度	平成16年度
	%	%
男子	7.8	15.4
女子	7.1	13.9

表32 アレルギー性鼻炎の診断状況

(診断あり)	平成21年度	
	人数	%
男子 (n=1,404)	180	12.8
女子 (n=1,290)	118	9.1

(参考) 平成16年度調査

	平成16年度
	%
男子	9.7
女子	8.6

注) 平成 11 年度については集計結果がないため比較できない

(14) アレルギー性結膜炎の症状と診断

これまでにアレルギー性結膜炎の症状があった児の割合は、男子 9.4%、女子 6.0%、アレルギー性結膜炎の診断を受けた児の割合は、男子 6.1%、女子 3.4%であり、症状があった児、診断を受けた児ともに男子が女子に比べ高かった。平成 16 年度調査と比べると、症状、診断ともに、男子では増加し、女子では減少した（表 33、表 34）。

表33 アレルギー性結膜炎の有症者数及び有症率

	平成21年度	
	人数	%
(症状あり)		
男子 (n=1,399)	132	9.4
女子 (n=1,296)	78	6.0

(参考) 平成11年度調査、平成16年度調査

	平成11年度	平成16年度
	%	%
男子	5.4	7.3
女子	4.7	6.4

表34 アレルギー性結膜炎の診断状況

	平成21年度	
	人数	%
(診断あり)		
男子 (n=1,371)	84	6.1
女子 (n=1,278)	44	3.4

(参考) 平成16年度調査

	平成16年度
	%
男子	4.8
女子	4.1

注) 平成 11 年度については集計結果がないため比較できない

3 通所（園）状況

保育所・幼稚園・認定こども園に通所（園）している児の割合は39.0%であり、平成16年度調査と比べ8.7%増加した（表35）。

通所（園）している児のうち、これまでに何らかのアレルギー疾患の診断を受けている児の割合は44.3%であった（表36）。

表35 保育所・幼稚園・認定子ども園への通所（園）状況

	平成21年度	
	人数	%
総数	2,903	100.0
通っている	1,132	39.0
通っていない	1,771	61.0

（参考）平成16年度調査

	平成16年度
	%
総数	100.0
通っている	30.3
通っていない	69.7

注) 平成11年度については集計結果がないため比較できない

表36 通所（園）している児のうちアレルギー疾患を診断されている児（複数回答）

(n=1,132)

	人数	%
ぜん息	125	11.0
食物アレルギー	190	16.8
アトピー性皮膚炎	190	16.8
アレルギー性鼻炎	126	11.1
アレルギー性結膜炎	64	5.7
何らかのアレルギー	502	44.3

4 家族のアレルギー疾患のり患状況

児に何らかのアレルギー疾患の診断がある場合、父親に何らかのアレルギー疾患の症状や診断がある割合は48.5%であり、母親に何らかのアレルギー疾患の症状や診断がある割合は55.2%であった（表37）。

表37 家族のアレルギー疾患のり患状況
 (児にアレルギー疾患の診断がある場合、家族に何らかのアレルギー疾患の症状や診断がある割合) (複数回答)

(児に下記の疾患の診断あり)	父親		母親		兄弟姉妹	
	人数	%	人数	%	人数	%
ぜん息・ぜん鳴 (n = 264)	125	47.3	142	53.8	88	33.3
食物アレルギー (n = 411)	198	48.2	230	56.0	79	19.2
アトピー性皮膚炎 (n = 437)	226	51.7	242	55.4	120	27.5
アレルギー性鼻炎 (n = 300)	167	55.7	194	64.7	98	32.7
アレルギー性結膜炎 (n = 129)	80	62.0	94	72.9	41	31.8
じんましん (n = 307)	150	48.9	178	58.0	74	24.1
その他のアレルギー疾患 (n = 123)	69	56.1	74	60.2	31	25.2
何らかのアレルギー (n = 1131)	549	48.5	624	55.2	291	25.7

5 アレルギー疾患に関する要望

(1) 行政（都や区市町村）に対する希望

保護者が「希望する」又は「特に強く希望する」と回答した項目は、「禁煙・分煙など、たばこ対策の徹底」が最も多く、次いで、「食品表示の監視の徹底」が多かった（図1）。

児及び家族のアレルギー疾患の症状や診断の有無に関わらず、行政に対する希望は同様の傾向であった（図2）。

図1 行政（都や区市町村）に対する希望（複数回答）

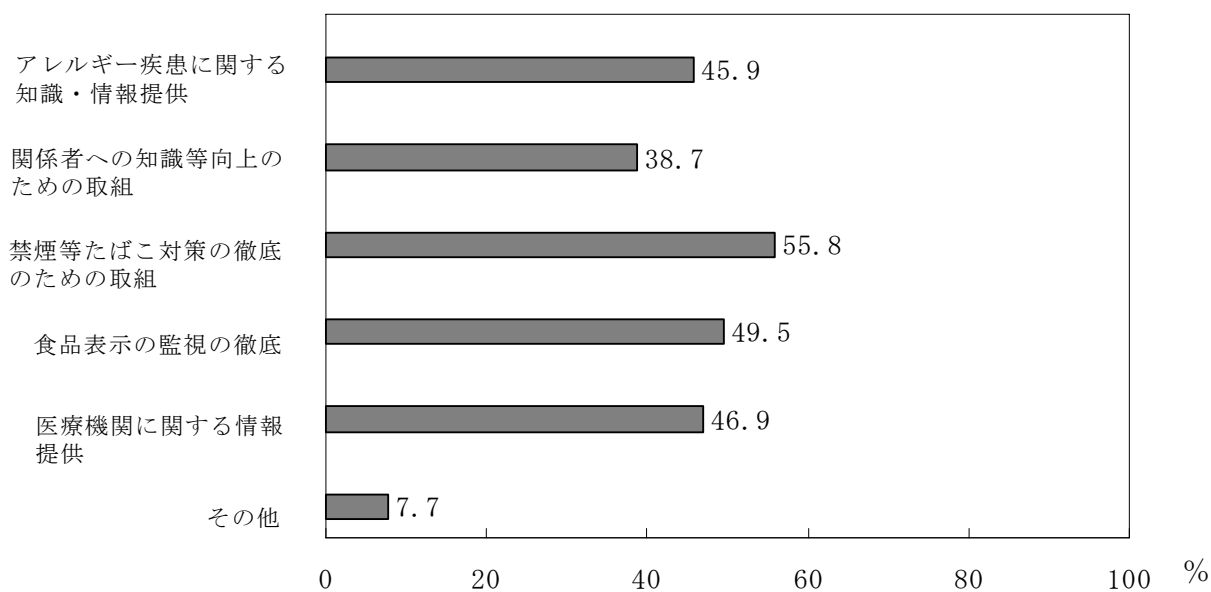
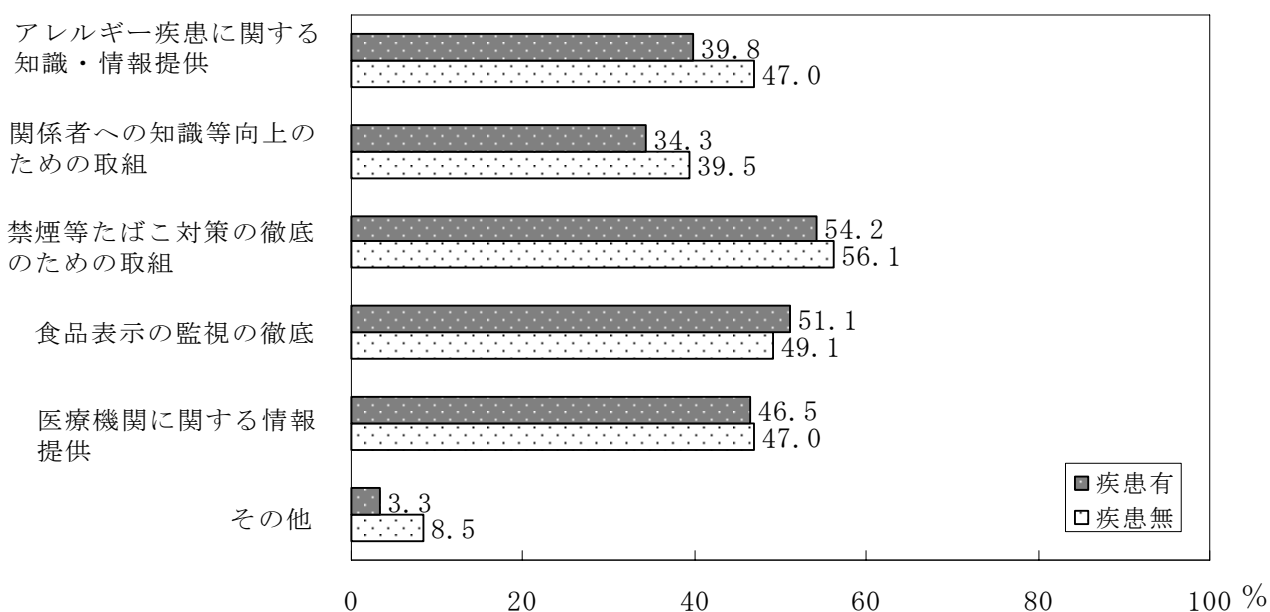


図2 行政（都や区市町村）に対する希望（児及び家族のアレルギー疾患の有無別）（複数回答）



(2) 医療機関に対する希望

保護者が「希望する」又は「特に強く希望する」と回答した項目は、「夜間や救急対応の充実」が最も多かった(図3)。

児及び家族のアレルギー疾患の症状や診断の有無に関わらず、医療機関に対する希望は同様の傾向であった(図4)。

図3 医療機関に対する希望 (複数回答)

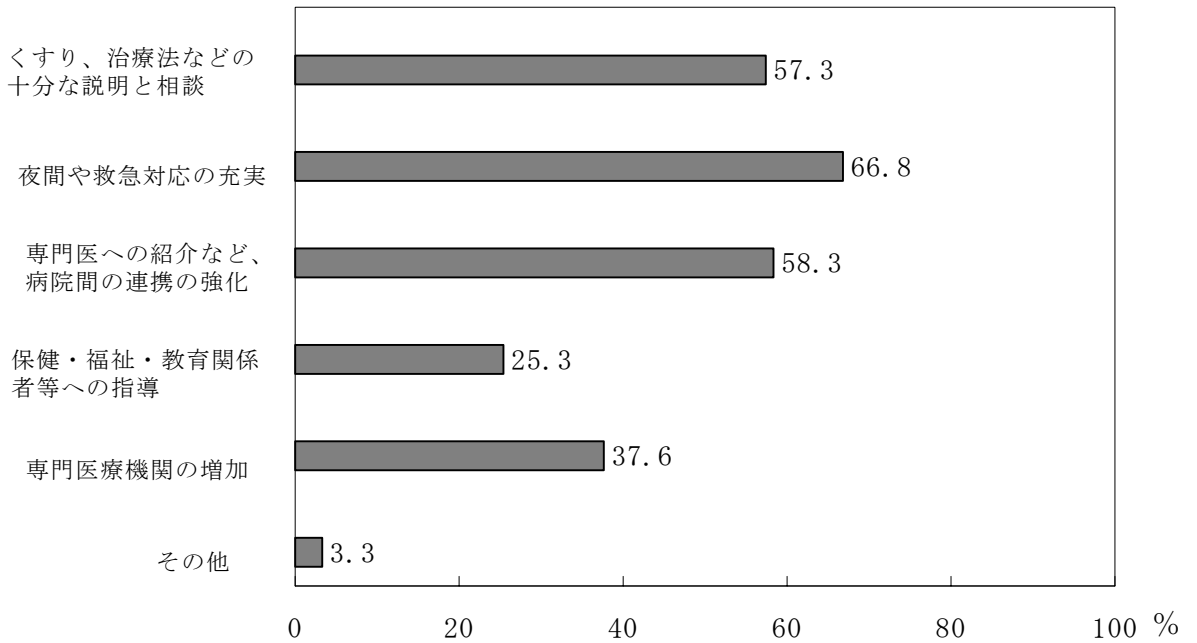
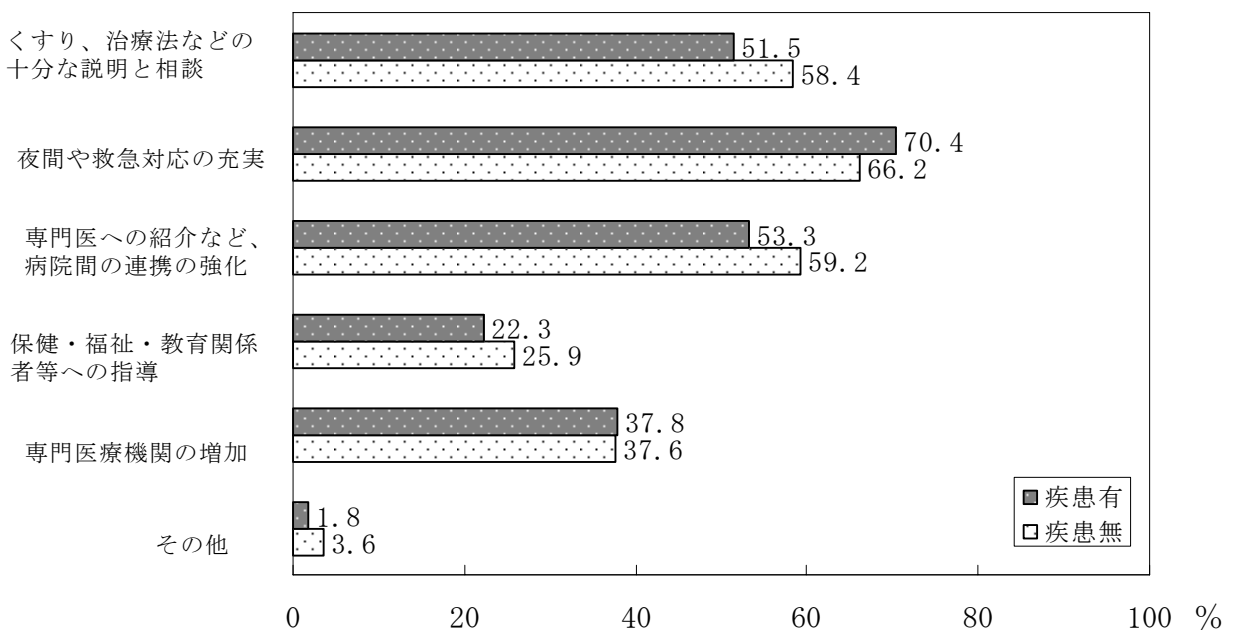


図4 医療機関に対する希望 (児及び家族のアレルギー疾患の有無別) (複数回答)



(3) 保育所・幼稚園・認定こども園に対する希望

保護者が「希望する」又は「特に強く希望する」と回答した項目は、「アレルギー疾患に関する職員の理解と知識の向上」が最も多かった(図5)。

児及び家族のアレルギー疾患の症状や診断の有無に関わらず、保育所等に対する希望は同様の傾向であった(図6)。

図5 保育所・幼稚園・認定こども園に対する希望(複数回答)

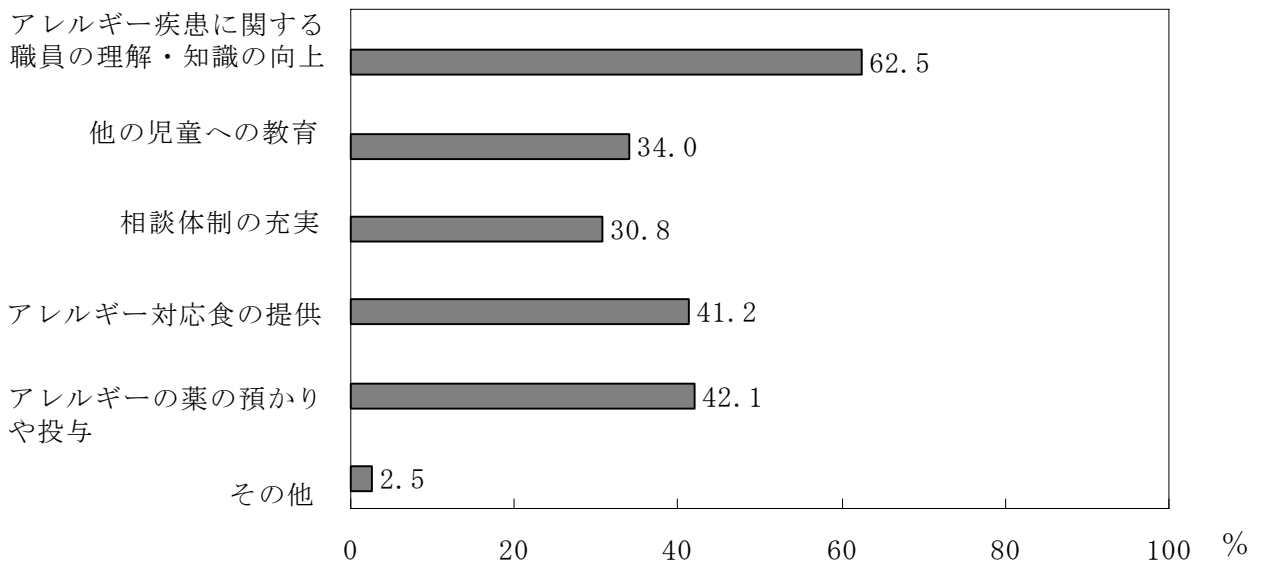
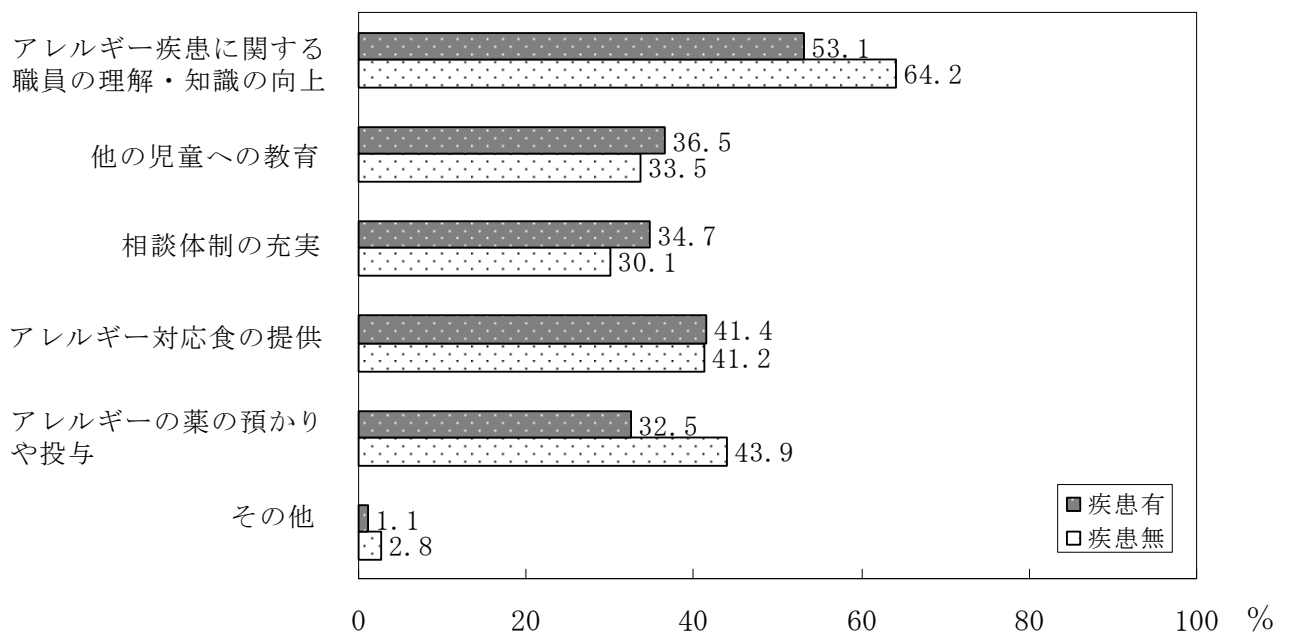


図6 保育所・幼稚園・認定こども園に対する希望(児及び家族のアレルギー疾患の有無別)(複数回答)



(4) 施設・事業者（レストラン、食品製造販売業者等）に対する希望

保護者が「希望する」又は「特に強く希望する」と回答した項目は、「わかりやすいアレルギー食品表示」が最も多かった（図7）。

児及び家族のアレルギー疾患の症状や診断の有無別で施設や事業者に対する希望の違いをみると、アレルギー疾患がある場合は、「わかりやすいアレルギー食品表示」の希望が最も多かった。一方、アレルギー疾患がない場合は、「禁煙・分煙場所の徹底」の希望が最も多かった（図8）。

図7 施設・事業者（レストラン、食品製造販売業者等）に対する希望（複数回答）

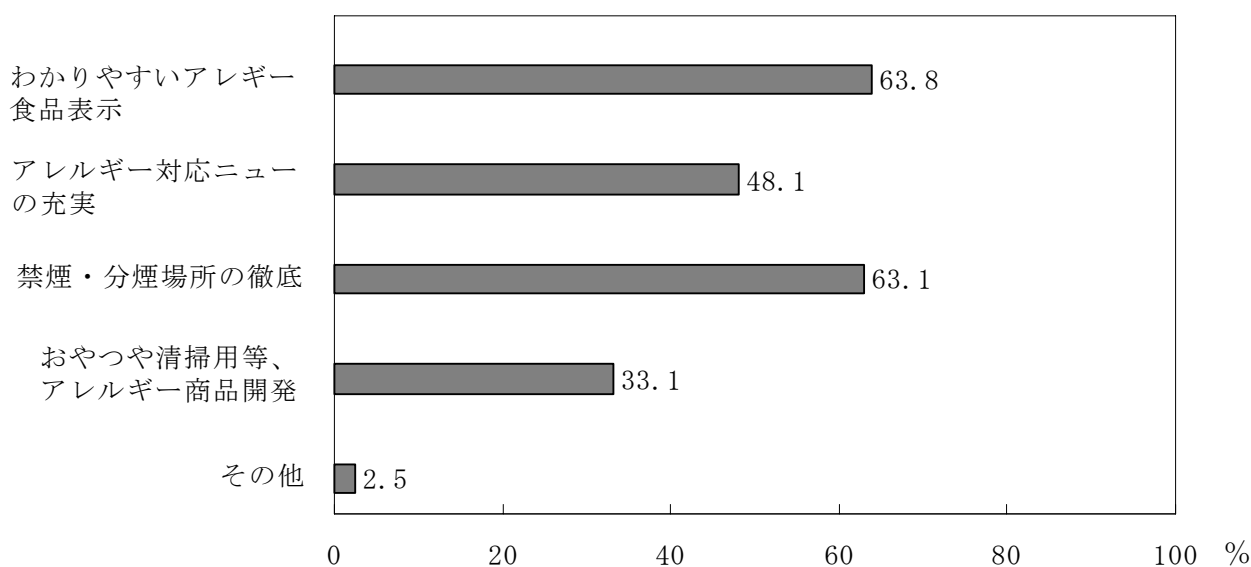
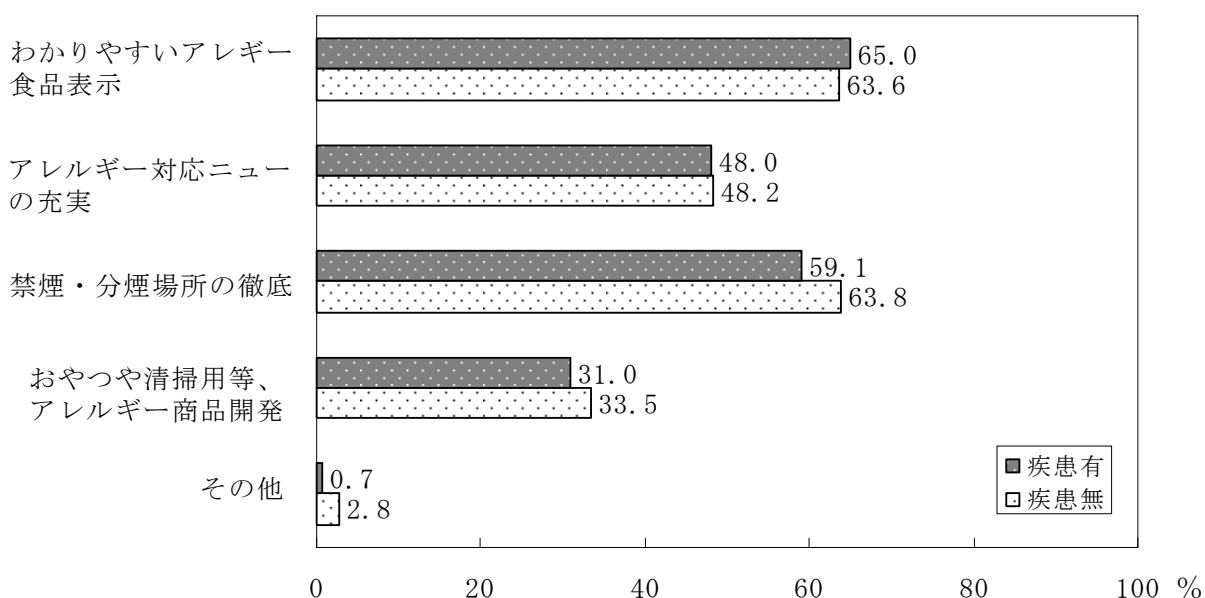


図8 施設・事業者（レストラン、食品製造販売業者等）に対する希望（児及び家族のアレルギー疾患の有無別）（複数回答）



第3 調査結果のまとめ

第3 調査結果のまとめ

1 対象者の概要

調査票を配布した対象者 7,247 人のうち、有効回答者数は 2,912 人であった。

有効回答者数の割合を男女別で見ると、男子は 51.5%、女子は 47.7% であり、地区別で見ると、「区部」が 62.0%、「市・郡部」が 37.3%、「島部」が 0.8%であった。

今回の調査における有効回答者数の男女別及び地区別の人口の割合は、東京都内の 3 歳児の男女別・地区別の人口の割合と同じ傾向であった。

【参考データ】

3 歳児人口（男女別）

	人数	%
総数	94,584	100.0
男子	48,417	51.2
女子	46,167	48.8

3 歳児人口（地区別）

	人数	%
総数	94,584	100.0
区部	61,144	64.6
市・郡部	33,202	35.1
島部	238	0.3

(参考) 東京都「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」(平成21年1月)

2 アレルギー疾患の状況

(1) アレルギー疾患のり患状況

これまでに何らかのアレルギー疾患の診断を受けた児の割合は、平成 16 年度調査及び平成 11 年度調査と比べ大きな増減はなく、この 10 年間で約 36%から約 38%で推移している。

今回の調査においても、依然として約 4 割の児が何らかのアレルギー疾患にり患していた。

(2) 各アレルギー疾患のり患状況

ア ぜん息

(ア) 診断

これまでにぜん息の診断を受けた児の割合は、平成 16 年度調査では平成 11 年度調査と比べ増加したが、今回の調査では平成 16 年度調査と比べ減少した。

また、ATS-DLD 方式に概ね準拠した設問による「ぜん息」は 8.7%であり、平成 11 年度調査と比べると、この 10 年間で 1.5%増加した。

(イ) 使用している薬

ぜん息の診断を受けた児の約半数が医師からぜん息治療薬を処方されていた。処方されているぜん息治療薬としては、その大半が長期管理薬（症状を予防あるいは軽減・消失させ、肺機能を正常化し、その状態を維持させるために継続的に使用する薬）であるロイコトリエン受容体拮抗薬であった。

服薬状況については、「ほぼできている」、「時々忘れるが、たいていできている」と回答した保護者を合わせると 9 割以上を占めており、概ね医師の指示に沿った薬の管理がなされていた。

イ 食物アレルギー

(ア) 診断

これまでに食物アレルギーの診断を受けた児の割合は、平成 11 年度調査と比べ倍増していた。この 10 年間の推移をみても、食物アレルギーは各アレルギー疾患の中でも増加傾向であった。

様々な研究者の報告によると、わが国における 3 歳児の食物アレルギー有病率は約 5%と考えられており¹⁾、今回の調査における食物アレルギー有病率は、全国平均と比べ高かった。

(イ) 出現した症状

食物アレルギーで出現した症状は、これまでに食物アレルギーの診断を受けた児では皮膚症状が 92.9%と最も高く、ショック症状は 3.9%にみられた。

(ウ) 原因食物

食物アレルギーの症状が出た原因（と思われる）食物は、食物アレルギーの診断を受けた児では、卵、牛乳、小麦の順で高く、この5年間、傾向は変わっていない。

3歳における即時型食物アレルギーの原因食物は、鶏卵、乳製品、小麦の順で多いとされており¹⁾、本調査においても同様の結果が得られた。

(エ) 制限・除去食への対応

この5年間で、医師の診断に基づいた食物制限や除去が増加し、保護者の自己判断による食物制限や除去が減少した。

ウ アトピー性皮膚炎

(ア) 診断

これまでにアトピー性皮膚炎の診断を受けた児の割合は、この10年間、約15%から約16%で推移しており、大きな増減はないものの、各アレルギー疾患の中で常に最も高い患率であった。

エ アレルギー性鼻炎

(ア) 診断

これまでにアレルギー性鼻炎の診断を受けた児の割合は11.1%であり、この10年間の推移をみると、増加傾向であった。

オ アレルギー性結膜炎

(ア) 診断

これまでにアレルギー性結膜炎の診断を受けた児の割合は4.8%であり、この10年間ほぼ横ばいで推移していた。

(3) アレルギー疾患の合併

アレルギー疾患の診断を受けた児について、他のアレルギー疾患の合併状況を調査したところ、平成16年度調査と同様に、何らかのアレルギー疾患の診断がある児は他のアレルギー疾患を高頻度に合併していた。

3 通所（園）状況

保育所等で集団保育を受けている児のうち、約4割の児がアレルギー疾患にり患していた。

4 家族のアレルギー疾患のり患状況

何らかのアレルギー疾患の診断を受けている児の両親の4割以上が何らかのアレルギー疾患の症状又は診断があり、その割合は、父親に比べ母親の方が高かった。

5 アレルギー疾患に関する要望

行政に対する希望としては、「禁煙・分煙など、たばこ対策の徹底」が最も多く、「食品表示の監視の徹底」や「都民に対する医療機関に関する情報の提供」の希望も多かった。

6 今後の方向性

今回の調査でも約4割の児がこれまでに何らかのアレルギー疾患の診断を受けており、引き続き、アレルギー疾患対策を推進していくことの重要性が示された。今後も各区市町村と連携し、母子保健事業等を通じて、保護者への正しい知識の普及啓発に取り組む必要がある。

アレルギー疾患は慢性疾患であり、長期にわたり適切な管理を要することが多い。また、保育所等に通う児の約4割がアレルギー疾患にり患していることから、家庭から保育・教育施設まで一貫した治療や適切な対応・管理が行われるよう、保護者、保育・教育施設の職員に対し、適切な対応・管理についての正しい知識や情報を提供していく必要がある。

東京都では、平成10年8月に「東京都アレルギー性疾患検討委員会」を設置し、総合的なアレルギー対策に取り組んでいる。これらの対策と今回の調査結果を踏まえ、今後、保育や教育に関わる関係職員等に対して、アレルギー疾患に関する正しい知識の普及啓発や研修等を実施し、さまざまな角度から総合的なアレルギー疾患対策を推進していく。

参考文献

- 1) 厚生労働科学研究班, 「食物アレルギーの診療の手引き 2008」, 2008 年
- 2) 日本アレルギー学会, 「アレルギー疾患診断・治療ガイドライン 2007」, 協和企画, 2007 年 10 月
- 3) 日本小児アレルギー学会, 「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2002」, 協和企画, 2002 年 11 月
- 4) 日本小児アレルギー学会, 「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2008」, 協和企画, 2008 年 12 月
- 5) 東京都福祉保健局, 「アレルギー性疾患に関する 3 歳児全都調査 (平成 16 年度) 報告書」, 平成 18 年 3 月

第4 調査の結果

第4 調査の結果

表1 3歳児の属性

居住地域と性別	人数	割合
居住地域		
区部	1804	62.0
市部・郡部	1086	37.3
島部	22	0.8
無回答	0	0.0
総数	2912	100.0
性別		
男子	1500	51.5
女子	1390	47.7
無回答	22	0.8
総数	2912	100.0

I お子様のアレルギー疾患についておうかがいします。

表2 問1. 呼吸器症状についておうかがいします。これまでに、お子様に、セキこんだり息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」するなど、苦しそうな症状がありましたか？

項目	人数	割合
1 はい	682	23.4
2 いいえ	2218	76.2
無回答	12	0.4
総数	2912	100.0

問1-1～問1-4は、問1で「1. はい」とお答えの方におうかがいします。

表3 問1-1. 上記のような症状がはじめて起きたのは、何歳何か月ですか？

症状がはじめて起きた時期	人数	割合
0～6ヶ月	85	12.5
7～12	157	23.0
13～18	138	20.2
19～24	117	17.2
25～30	87	12.8
31～36	65	9.5
37～42	11	1.6
無回答	22	3.2
総数	682	100.0

表4 問1-2. 上記のような症状はこれまでに何回ありましたか？

回数	人数	割合
1 1回	151	22.1
2 2回以上	529	77.6
無回答	2	0.3
総数	682	100.0

表5 問1-3. この2年間に、上記のような症状がありましたか？

項目	人数	割合
1 ある	567	83.1
2 ない	107	15.7
無回答	8	1.2
総数	682	100.0

表6 問1-4. 問1-3で、「1. ある」とお答えの方におうかがいします。

この1年間のお子様の状態について、6項目のうち最も近い番号1つに○印をつけてください。

項目	人数	割合
1 この1年間は、「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が全くなかった。	90	15.9
2 セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、年に数回、季節的にあった。ときに呼吸困難を伴うこともあったが、そのときだけ気管支を広げる薬（β ₂ 刺激薬）を使い、短期間で症状は改善した。	364	64.2
3 セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、月1回以上、週1回未満あった。ときに呼吸困難を伴うこともあったが、長く続くことはなく、日常生活が障害されることは少なかった。	52	9.2
4 セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、週1回以上あったが、毎日続くほどではなかった。ときにその症状により日常生活や睡眠が障害されることがあった。	31	5.5
5 セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、毎日あった。週に1～2回、その症状により日常生活や睡眠が障害されることがあった。	15	2.6
6 治療を受けても上記5の状態が続いた。しばしば夜間に時間外受診し、入院をくり返した。	2	0.4
無回答	13	2.3
総数	567	100.0

表7 問2. お子様はこれまでに、「ぜん息」、「ぜん息性気管支炎」又は「小児ぜん息」と医師に診断されたことはありますか？ 診断されたことのある場合は、その時期もご記入ください。

項目	人数	割合
1 はい	338	11.6
2 いいえ	2513	86.3
無回答	61	2.1
総数	2912	100.0

診断された時期	人数	割合
0～6ヶ月	19	5.6
7～12	61	18.0
13～18	45	13.3
19～24	75	22.2
25～30	62	18.3
31～36	56	16.6
37～42	8	2.4
無回答	12	3.6
総数	338	100.0

問2-1～問2-3は、問2 で、「1. はい」とお答えの方におうかがいします。

表8 問2-1. 「ぜん息」、「ぜん息性気管支炎」、[小児ぜん息]のために、最近1か月間、毎日使用するよう医師に言われている薬はありますか？

項目	人数	割合
1 ある	142	42.0
2 ない	196	58.0
総数	338	100.0

問2-1 で、「1. ある」とお答えの方におうかがいします。

表9 問2-2. 現在、使用している薬の名前をご記入ください。(複数回答)

項目	人数	割合
1 内服薬	135	95.1
2 吸入薬	50	35.2
3 その他	19	13.4
総数	142	100.0

薬の名前	人数	割合
吸入ステロイド薬	42	29.6
ロイコトリエン受容体拮抗薬	130	91.5
その他の抗アレルギー薬	18	12.7
テオフィリン薬	4	2.8
吸入 β_2 刺激薬	10	7.0
経口 β_2 刺激薬	11	7.7
経皮吸収型 β_2 刺激薬	18	12.7
クロモグリク酸ナトリウム	13	9.2
総数	142	100.0

表10 問2-3. 薬はどの程度、医師から言われたとおりに使用できていますか？

項目	人数	割合
1 ほぼできている	96	67.6
2 時々忘れるが、たいていできている	33	23.2
3 半分くらい忘れるが、半分くらいできている	5	3.5
4 あまりしていない	3	2.1
5 全くしていない	3	2.1
無回答	2	1.4
総数	142	100.0

表11 問3. 食物アレルギーについておうかがいします。お子様はこれまでに、食事が原因と思われるアレルギーの症状を起こしたことがありますか。

項目	人数	割合
1 はい	619	21.3
2 いいえ	2250	77.3
無回答	43	1.5
総数	2912	100.0

問3-1～問3-6は、問3で「1. はい」とお答えの方におうかがいします。

表12 問3-2. これまでに、食物アレルギーの原因(と思われる)食物を食べないように除去したり、制限したりしたことはありますか？

項目	人数	割合
1 現在もしている	295	47.7
2 過去にしたことはあるが現在はしていない	271	43.8
3 今までにしたことがない	50	8.1
無回答	3	0.5
総数	619	100.0

表 13 問3-1. これまでに食物アレルギーの症状が出たとき、その原因（と思われる）食物は何でしたか
あてはまる番号すべてに○印をつけてください。（複数回答）

問3-2. の続き 「1. 現在もしている」、「2. 過去にしたことはあるが、現在はしていない」
とお答えの方は、制限をしている（制限したことがある）食物を、問3-1の枠
内に記載の食物の番号でご記入ください。（複数回答）

（問3-1と問3-2の後半の質問は同じ表にした。）

	問3-1 食物アレルギー 症状の原因と 思われる食物		問3-2 食物制限の状況					
	人数	割合	現在もして いる		過去にしたことはあ るが、 現在はしていない		総数	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 卵	437	70.6	184	62.4	147	54.2	331	58.5
2 牛乳	165	26.7	79	26.8	41	15.1	120	21.2
3 小麦	60	9.7	36	12.2	5	1.8	41	7.2
4 そば	30	4.8	33	11.2	6	2.2	39	6.9
5 落花生	33	5.3	35	11.9	6	2.2	41	7.2
6 えび	53	8.6	28	9.5	11	4.1	39	6.9
7 かに	29	4.7	22	7.5	5	1.8	27	4.8
8 いくら	57	9.2	45	15.3	11	4.1	56	9.9
9 あわび	4	0.6	7	2.4	1	0.4	8	1.4
10 牛肉	11	1.8	6	2.0	1	0.4	7	1.2
11 いか	11	1.8	10	3.4	3	1.1	13	2.3
12 キウイ	23	3.7	11	3.7	3	1.1	14	2.5
13 オレンジ	3	0.5	4	1.4	1	0.4	5	0.9
14 くるみ	11	1.8	18	6.1	1	0.4	19	3.4
15 鶏肉	20	3.2	14	4.7	1	0.4	15	2.7
16 さけ	17	2.7	5	1.7	2	0.7	7	1.2
17 さば	31	5.0	14	4.7	6	2.2	20	3.5
18 大豆	40	6.5	19	6.4	8	3.0	27	4.8
19 豚肉	5	0.8	2	0.7	0	0.0	2	0.4
20 まつたけ	1	0.2	2	0.7	0	0.0	2	0.4
21 もも	3	0.5	1	0.3	1	0.4	2	0.4
22 やまいも	35	5.7	16	5.4	4	1.5	20	3.5
23 りんご	7	1.1	4	1.4	0	0.0	4	0.7
24 グミ・ゼラチン	7	1.1	2	0.7	0	0.0	2	0.4
25 バナナ	16	2.6	4	1.4	5	1.8	9	1.6
26 米	13	2.1	7	2.4	0	0.0	7	1.2
27 ごま	21	3.4	11	3.7	3	1.1	14	2.5
28 その他	108	17.4	37	12.5	19	7.0	56	9.9
総数	619	100.0	295	100.0	271	100.0	566	100.0

問3-1～問3-6は、問3で、「1. はい」とお答えの方におうかがいします。

表 14 問3-3. これまでに、食物アレルギーで出た症状はどのような症状でしたか？ あてはまる番号すべてに○印をつけてください。(複数回答)

項目	人数	割合
1 ぜん鳴・呼吸困難	51	8.2
2 皮膚の湿疹、むくみ、かゆみ、じんましん	562	90.8
3 目のはれ、かゆみ	122	19.7
4 鼻水、くしゃみ	35	5.7
5 口のはれ、かゆみ	118	19.1
6 腹痛、下痢、おう吐	94	15.2
7 ショック症状（ぐったりする、眠ってしまう、呼んでももうろうとしている等）	17	2.7
8 その他	13	2.1
総数	619	100.0

表 15 問3-4. 初めて食物アレルギーの症状が出たのは、何歳何か月ですか？

初めて食物アレルギーの症状が出た時期	人数	割合
0～6ヶ月	177	28.6
7～12	250	40.4
12～18	67	10.8
19～24	50	8.1
25～30	31	5.0
31～36	30	4.8
37～42	2	0.3
無回答	12	1.9
総数	619	100.0

表 16 問3-5. この1年間に、食物アレルギーの症状がありましたか？「1. はい」とお答えの方で、その症状のうち、ショック症状（ぐったりする、眠ってしまう、呼んでももうろうとしている等）を起こした回数をご記入ください。

項目	人数	割合
1 はい	190	30.7
2 いいえ	420	67.9
無回答	9	1.5
総数	619	100.0

回数	人数	割合
0回	106	55.8
1回	10	5.3
2回	3	1.6
無回答	71	37.4
総数	190	100.0

表 17 問3-6. お子様はこれまでに、「食物アレルギー」と医師に診断されたことはありますか？ 診断されたことのある場合は、その時期をご記入ください。

項目	人数	割合
1 はい	411	66.4
2 いいえ	202	32.6
無回答	6	1.0
総数	619	100.0

月齢	人数	割合
0～6ヶ月	139	33.8
7～12	181	44.0
13～18	34	8.3
19～24	28	6.8
25～30	14	3.4
31～36	12	2.9
37～42	1	0.2
無回答	2	0.5
総数	411	100.0

表 18 問4. これまでに、お子様に次のアレルギー疾患の「症状」がありましたか？また、この1年間に「症状」がありましたか？（複数回答）

項目	ある		ない		空白など		総数	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
これまで								
アトピー性皮膚炎	641	22.0	2150	73.8	121	4.2	2912	100.0
アレルギー性鼻炎 (花粉症を含む)	548	18.8	2214	76.0	150	5.2	2912	100.0
アレルギー性結膜炎 (花粉症を含む)	211	7.2	2501	85.9	200	6.9	2912	100.0
じんましん	565	19.4	2194	75.3	151	5.2	2912	100.0
その他のアレルギー疾患	174	6.0	2531	86.9	207	7.1	2912	100.0
この一年間								
アトピー性皮膚炎	473	16.2	1698	58.3	741	25.4	2912	100.0
アレルギー性鼻炎 (花粉症を含む)	488	16.8	1672	57.4	752	25.8	2912	100.0
アレルギー性結膜炎 (花粉症を含む)	161	5.5	1910	65.6	841	28.9	2912	100.0
じんましん	353	12.1	1831	62.9	728	25.0	2912	100.0
その他のアレルギー疾患	115	3.9	1959	67.3	838	28.8	2912	100.0

表 19 問5. お子様はこれまでに、次のアレルギー疾患であると医師に「診断」されたことがありますか？（複数回答）

項目	ある		ない		空白など		総数	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
アトピー性皮膚炎	443	15.2	2357	80.9	112	3.8	2912	100.0
アレルギー性鼻炎 (花粉症を含む)	309	10.6	2454	84.3	149	5.1	2912	100.0
アレルギー性結膜炎 (花粉症を含む)	135	4.6	2597	89.2	180	6.2	2912	100.0
じんましん	313	10.7	2453	84.2	146	5.0	2912	100.0
その他のアレルギー疾患	165	5.7	2580	88.6	167	5.7	2912	100.0

Ⅱ お子様の通園状況、ご家族のアレルギー疾患についておうかがいします。

表 20 問6. お子様は、現在、保育園・幼稚園・認定こども園に通っていますか？通っている場合は、通い始めた年齢をご記入ください。

項目	人数	割合
1 はい	1132	38.9
2 いいえ	1771	60.8
無回答	9	0.3
総数	2912	100.0

月齢	人数	割合
0～6ヶ月	201	17.8
7～12	310	27.4
13～18	181	16.0
19～24	130	11.5
25～30	110	9.7
31～36	167	14.8
37ヶ月以上	30	2.7
無回答	3	0.3
総数	1132	100.0

表 21 問7. ご両親やお子様の兄弟姉妹で、これまでに、何らかのアレルギー疾患の症状を起こしたり、医師から何らかのアレルギー疾患の診断を受けたことがありますか？（択一式回答）ある場合はどなたがあるのか○印をつけてください。（複数回答）

項目	人数	割合
1 ある	2084	71.6
2 なし	805	27.6
無回答	23	0.8
総数	2912	100.0

項目	人数	割合
父	1177	56.5
母	1430	68.6
兄弟	624	29.9
総数	2084	100.0

Ⅲ アレルギー疾患を持つお子様の症状の悪化を予防し、健康を保っていくために取り組んで欲しいことについておうかがいします。

表 22 問8. 行政（都や区市町村）に対する希望（複数回答）

項目	希望する (特に希望するを含む)		特に希望する	
	人数	割合	人数	割合
1 都民に対するアレルギー疾患に関する知識や情報の提供	1336	45.9	215	7.4
2 保健・福祉・教育関係者に対する知識や理解の向上のための取組	1126	38.7	231	7.9
3 禁煙・分煙など、たばこ対策の徹底	1626	55.8	807	27.7
4 食品表示の監視の徹底	1440	49.5	478	16.4
5 都民に対する医療機関に関する情報の提供	1365	46.9	340	11.7
6 その他	224	7.7	42	1.4
総数	2912	100.0	2912	100.0

表 23 問 9. 医療機関に対する希望 (複数回答)

項目	希望する (特に希望するを含む)		特に希望する	
	人数	割合	人数	割合
1 くすり、治療法などの十分な説明と相談	1670	57.3	424	14.6
2 夜間や救急対応の充実	1946	66.8	850	29.2
3 専門医への紹介など、病院どうしの連携の強化	1697	58.3	440	15.1
4 保健・福祉・教育関係者などへの指導	737	25.3	85	2.9
5 専門医療機関の増加	1096	37.6	315	10.8
6 その他	96	3.3	9	0.3
総数	2912	100.0	2912	100.0

表 24 問 10. 保育園・幼稚園・認定こども園に対する希望 (複数回答)

項目	希望する (特に希望するを含む)		特に希望する	
	人数	割合	人数	割合
1 アレルギー疾患に関する職員の理解と知識の向上	1819	62.5	481	16.5
2 他の児童への教育	990	34.0	146	5.0
3 相談体制の充実	898	30.8	129	4.4
4 アレルギー対応食の提供	1200	41.2	288	9.9
5 アレルギーの薬の預かりや投与	1227	42.1	281	9.6
6 その他	74	2.5	7	0.2
総数	2912	100.0	2912	100.0

表 25 問 11. 施設・事業者(レストラン、食品製造販売業者等)に対する希望 (複数回答)

項目	希望する (特に希望するを含む)		特に希望する	
	人数	割合	人数	割合
1 わかりやすいアレルギー食品表示	1858	63.8	391	13.4
2 アレルギー対応メニューの充実	1402	48.1	318	10.9
3 禁煙・分煙場所の徹底	1837	63.1	886	30.4
4 おやつや清掃用具など、アレルギー商品の開発	963	33.1	142	4.9
5 その他	72	2.5	8	0.3
総数	2912	100.0	2912	100.0

表 26 この調査で定義した各アレルギー疾患様の「症状あり」の人数

アレルギー疾患様の症状	設問と回答	男子 (人)	女子 (人)	性別不明 (人)	総数 (人)	
ぜん鳴	問 1 これまでの症状	問 1-2 症状の回数				
	1 はい	1回	78	70	3	151
		2回以上	313	213	3	529
	2 いいえ		1105	1098	15	2218
	総数		1496	1381	21	2898
食物アレルギー様	問 3 これまでの症状					
	1 はい	351	263	5	619	
	2 いいえ	1134	1099	17	2250	
	総数	1485	1362	22	2869	
アトピー性皮膚炎様	問 4 これまでの症状					
	1 ある	352	287	2	641	
	2 なし	1087	1047	16	2150	
	総数	1439	1334	18	2791	
アレルギー性鼻炎様	問 4 これまでの症状					
	1 ある	317	223	8	548	
	2 なし	1115	1086	13	2214	
	総数	1432	1309	21	2762	
アレルギー性結膜炎様	問 4 これまでの症状					
	1 ある	132	78	1	211	
	2 なし	1267	1218	16	2501	
	総数	1399	1296	17	2712	
じんましん様	問 4 これまでの症状					
	1 ある	307	256	4	567	
	2 なし	1118	1062	14	2194	
	総数	1425	1318	18	2761	
その他のアレルギー疾患様	問 4 これまでの症状					
	1 ある	91	82	1	174	
	2 なし	1301	1214	16	2531	
	総数	1392	1296	17	2705	

表 27 この調査で定義した各アレルギー疾患様の「診断あり」の人数

診断されたアレルギー疾患	設問と回答			男子 (人)	女子 (人)	性別不明 (人)	総数 (人)
ぜん息	問 1 これまでの症状 1 はい	問 1-2 症状の回数 1 回	問 2 診断 1 はい	26	13	—	39
			2 いいえ	49	56	3	108
		2 回以上	1 はい	166	95	3	264
			2 いいえ	143	114	—	257
	2 いいえ		1 はい	17	14	—	31
		2 いいえ	1068	1060	14	2142	
総数			1469	1352	20	2841	
食物アレルギー	問 3 これまでの症状 1 はい		問 3-6 診断 1 はい	250	160	1	411
			2 いいえ	97	101	4	202
	2 いいえ			1134	1099	17	2250
			総数	1481	1360	22	2863
アトピー性皮膚炎	問 4 これまでの症状 1 ある		問 4 診断 1 ある	242	193	2	437
			2 ない	103	89	—	192
	2 ない		1 ある	3	3	—	6
			2 ない	1074	1035	16	2125
			総数	1422	1320	18	2760
アレルギー性鼻炎	問 4 これまでの症状 1 ある		問 4 診断 1 ある	180	118	2	300
			2 ない	124	96	4	224
	2 ない		1 ある	4	4	—	8
			2 ない	1096	1072	13	2181
			総数	1404	1290	19	2713
アレルギー性結膜炎	問 4 これまでの症状 1 ある		問 4 診断 1 ある	84	44	1	129
			2 ない	43	30	—	73
	2 ない		1 ある	2	4	—	6
			2 ない	1242	1200	16	2458
			総数	1371	1278	17	2666
じんましん	問 4 これまでの症状 1 ある		問 4 診断 1 ある	168	138	1	307
			2 ない	132	111	3	246
	2 ない		1 ある	1	3	—	4
			2 ない	1100	1044	14	2158
			総数	1401	1296	18	2715
その他のアレルギー疾患	問 4 これまでの症状 1 ある		問 4 診断 1 ある	60	62	1	123
			2 ない	30	17	—	47
	2 ない		1 ある	25	10	—	35
			2 ない	1255	1188	16	2459
			総数	1370	1277	17	2664

表 28 ぜん息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、じんましん、その他のアレルギー疾患のうち何らかのアレルギーの「症状あり」および「診断あり」の状況

項目	男性(人)	女性(人)	性別不明(人)	総数(人)
何らかのアレルギー様の「症状あり」について				
1 なし	588	659	10	1257
2 あり	912	731	12	1655
総数	1500	1390	22	2912
何らかのアレルギー疾患の「診断あり」について				
1 なし	856	910	15	1781
2 あり	644	480	7	1131
総数	1500	1390	22	2912

表 29 アレルギー疾患の「診断あり」の場合の合併状況（複数回答）

疾患名	合併あり(人)	
ぜん息 (N=264)	食物アレルギー	75
	アトピー性皮膚炎	77
	アレルギー性鼻炎	51
	アレルギー性結膜炎	23
	じんましん	46
	その他のアレルギー疾患	42
食物アレルギー (N=411)	アトピー性皮膚炎	181
	アレルギー性鼻炎	76
	アレルギー性結膜炎	37
	じんましん	141
	その他のアレルギー疾患	78
アトピー性皮膚炎 (N=437)	アレルギー性鼻炎	90
	アレルギー性結膜炎	42
	じんましん	108
	その他のアレルギー疾患	44
アレルギー性鼻炎 (N=300)	アレルギー性結膜炎	61
	じんましん	77
	その他のアレルギー疾患	30
アレルギー性結膜炎 (N=129)	じんましん	36
	その他のアレルギー疾患	16
じんましん (N=307)	その他のアレルギー疾患	42

表 30 ぜん息の「診断あり」の場合のぜん息の重症度分類

ぜん息の「診断あり」の場合の 問 1-4 この 1 年間の状態	ぜん息の 重症度分類	男子 (人)	女子 (人)	性別不明 (人)	総数 (人)
2 セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、年に数回、季節的にあった。ときに呼吸困難を伴うこともあったが、そのときだけ気管支を広げる薬 (β_2 刺激薬) を使い、短時間で症状は改善した。	間欠型	112	63	1	176
3 セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、月 1 回以上、週 1 回未満あった。ときに呼吸困難を伴うこともあったが、長く続くことはなく、日常生活が障害されることは少なかった。	軽症持続型	15	9	1	25
4 セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、週 1 回以上あったが、毎日続くほどではなかった。ときにその症状により日常生活や睡眠が障害されることがあった。	中等症持続型	5	9	—	14
5 セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、毎日あった。週に 1～2 回、その症状により日常生活や睡眠が障害されることがあった。	重症持続型 1	7	3	—	10
6 治療を受けても上記 5 の状態が続いた。しばしば夜間に時間外受診し、入退院をくり返した。	重症持続型 2	2	—	—	2
総数		141	84	2	227

表 31 ぜん鳴の「症状あり」の場合の症状が初めて出た時期の分布

ぜん鳴の「症状あり」の場合の 問 1-1 症状が初めて出た時期	男子(人)	女子(人)	性別不明(人)	総数(人)
0～6 ヶ月	47	29	—	76
7～12	86	55	1	142
13～18	61	46	1	108
19～24	52	37	1	90
25～30	36	27	—	63
31～36	15	12	—	27
37～42	2	—	—	2
総数	299	206	3	508

表 32 ぜん息の「診断あり」の場合の診断された時期の分布

ぜん息の「診断あり」の場合の 問 2 診断された時期	男子(人)	女子(人)	性別不明(人)	総数(人)
0～6 ヶ月	10	4	—	14
7～12	37	16	1	54
13～18	19	15	1	35
19～24	36	22	—	58
25～30	32	20	1	53
31～36	20	13	—	33
37～42	3	3	—	6
総数	157	93	3	253

表 33 ぜん鳴とぜん息の現症と既往（ATS-DLD 方式に概ね準拠）

ぜん鳴の「症状あり」	ぜん息の「診断あり」	問 1 これまで症状がある場合の 問 1-3 2年間の症状の有無	項目	人数
1 症状あり	1 診断あり	2年以内に症状あり	ぜん息の現症	252
		2年より前に症状あり	ぜん息の既往	9
	2 診断なし	2年以内に症状あり	ぜん鳴の現症	226
		2年より前に症状あり	ぜん鳴の既往	28
2 症状なし				
総数				2898

表 34 ぜん鳴の既往と現症およびぜん息の累積有症数（ISSAC 方式に概ね準拠）

設問	項目	人数
問 1 これまでの症状		
1 症状あり	ぜん鳴の既往	682
2 症状なし		2218
総数		2900
問 2 診断		
1 診断されたことあり	ぜん息の累積 有症数	338
2 診断されたことなし		2513
総数		2851

問 1 これまでの症状

1 症状あり

問 1-4 この1年間の状態

1 症状あり

1 この1年間は、「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が全くなかった。	90	90
2 セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、年に数回、季節的にあった。ときに呼吸困難を伴うこともあったが、そのときだけ気管支を広げる薬（β ₂ 刺激薬）を使い、短期間で症状は改善した。	364	
3 セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、月1回以上、週1回未満あった。ときに呼吸困難を伴うこともあったが、長く続くことはなく、日常生活が障害されることは少なかった。	52	
4 セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、週1回以上あったが、毎日続くほどではなかった。ときにその症状により日常生活や睡眠が障害されることがあった。	31	
5 セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、毎日あった。週に1～2回、その症状により日常生活や睡眠が障害されることがあった。	15	
6 治療を受けても上記5の状態が続いた。しばしば夜間に時間外受診し、入退院をくり返した。	2	ぜん鳴の現症 464

2 症状なし

総数

2218

2772

表 35 ぜん息の「診断あり」の場合の治療薬の処方状況

ぜん息の「診断あり」の場合の	
問 1-2 治療薬の処方の有無	人数
1 処方あり	124
2 処方なし	140
総数	264

表 36 ぜん息の「診断あり」の場合の処方薬（複数回答）

ぜん息の「診断あり」で問 1-2 治療薬の処方ありの場合の	
問 2-2 処方薬	人数
吸入ステロイド薬（ICS）	39
ロイコトリエン受容体拮抗薬（LTRA）	113
その他の抗アレルギー薬	14
テオフィリン薬	3
吸入β ₂ 刺激薬	9
経口β ₂ 刺激薬	8
経皮吸収型β ₂ 刺激薬	16
クロモグリク酸ナトリウム	11
総数	124

表 37 処方薬の組み合わせ

ぜん息の「診断あり」で問 1-2 治療薬の処方ありの 問 2-2 処方薬の組み合わせ	ぜん息の重症度分類					総数
	間欠型	軽症 持続型	中等症 持続型	重症 持続型 1	重症 持続型 2	
その他の薬	2	—	—	2	—	4
LTRA	42	6	3	1	—	52
LTRA + その他の薬	14	3	2	3	—	22
ICS	2	1	—	—	1	4
ICS + LTRA	10	4	3	2	—	19
ICS + LTRA + その他の薬	5	4	1	1	1	12
総数	75	18	9	9	2	113

表 38 ぜん息の「診断あり」の場合の治療薬の使用状況

ぜん息の「診断あり」で問 1-2 治療薬の処方ありの場合の	
問 2-3 治療薬の使用状況	人数
1 ほぼできている	81
2 時々忘れるが、たいていできている	30
3 半分くらい忘れるが、半分くらいできている	5
4 あまりしていない	3
5 全くしていない	3
総数	122

表 39 食物アレルギー様の「症状あり」の症例の症状（複数回答）

食物アレルギー様の「症状あり」の 問 3-3 症状	男子 (人)	女子 (人)	性別不明 (人)	総数 (人)
1 ぜん鳴・呼吸困難	35	16	—	51
2 皮膚の湿疹、むくみ、かゆみ、じんましん	317	240	5	562
3 目のはれ、かゆみ	73	48	1	122
4 鼻水、くしゃみ	22	13	—	35
5 口のはれ、かゆみ	67	51	—	118
6 腹痛、下痢、おう吐	56	37	1	94
7 ショック症状（ぐったりする、眠ってしまう、呼んでももうろうとしている等）	14	3	—	17
8 その他	10	3	—	13
総数	351	263	5	619

表 40 食物アレルギーの「診断あり」の場合の症状（複数回答）

食物アレルギーの「診断あり」の 問 3-3 症状	男子 (人)	女子 (人)	性別不明 (人)	総数 (人)
1 ぜん鳴・呼吸困難	32	16	—	48
2 皮膚の湿疹、むくみ、かゆみ、じんましん	233	148	1	382
3 目のはれ、かゆみ	65	38	—	103
4 鼻水、くしゃみ	21	9	—	30
5 口のはれ、かゆみ	49	35	—	84
6 腹痛、下痢、おう吐	44	27	—	71
7 ショック症状（ぐったりする、眠ってしまう、呼んでももうろうとしている等）	13	3	—	16
8 その他	6	2	—	8
総数	250	160	1	411

表 41 食物アレルギー「診断あり」の有無と食物除去・食事制限の状況

食物アレルギーの「診断あり」 について	問 3-2 食物除去や食事制限の状況			総数 (人)
	現在している (人)	過去にしていたが 現在はしていない (人)	今までにしたこ とはない (人)	
1 診断あり	233	167	8	408
2 診断なし	61	102	39	202
総数	294	269	47	610

表 42 食物アレルギーの「症状あり」の場合の症状が初めて出た時期の分布

問 3 食物アレルギーの「症状あり」の場合の 問 3-4 症状が初めて出た時期	男子(人)	女子(人)	性別不明(人)	総数(人)
0～6 ヶ月	110	67	—	177
7～12	135	113	2	250
13～18	42	24	1	67
19～24	24	26	—	50
25～30	15	16	—	31
31～36	18	10	2	30
37～42	1	1	—	2
総数	345	257	5	607

表 43 食物アレルギー「診断あり」の場合の診断された時期の分布

食物アレルギー「診断あり」の場合の				
問 3-6 診断された時期	男子(人)	女子(人)	性別不明(人)	総数(人)
0～6 ヶ月	85	54	—	139
7～12	111	69	1	181
13～18	19	15	—	34
19～24	15	13	—	28
25～30	10	4	—	14
31～36	8	4	—	12
37～42	1	—	—	1
総数	249	159	1	409

表 44 食物アレルギーの「診断あり」の場合の問 3-1 の原因食物（複数回答）

原因食物	男子(人)	女子(人)	性別不明(人)	総数(人)
1 卵	210	134	1	345
2 牛乳	86	63	—	149
3 小麦	30	23	—	53
4 そば	8	11	—	19
5 落花生	15	12	—	27
6 えび	17	13	—	30
7 かに	11	8	—	19
8 いくら	24	11	—	35
9 あわび	2	1	—	3
10 牛肉	6	3	—	9
11 いか	5	4	—	9
12 キウイ	9	5	—	14
13 オレンジ	1	1	—	2
14 くるみ	6	3	—	9
15 鶏肉	10	8	—	18
16 さけ	7	7	—	14
17 さば	10	12	—	22
18 大豆	21	11	—	32
19 豚肉	2	1	—	3
20 まつたけ	1	0	—	1
21 もも	1	0	—	1
22 やまいも	10	11	—	21
23 りんご	3	2	—	5
24 グミ・ゼラチン	1	3	—	4
25 バナナ	8	5	—	13
26 米	3	8	—	11
27 ごま	9	7	—	16
28 その他	34	27	—	61
総数	250	160	1	411

表 45 アレルギー疾患の診断と通園（所）状況（複数回答）

「診断あり」のアレルギー疾患名	問 6 通園状況	
	通園している（人）	通園していない（人）
ぜん息	125	137
食物アレルギー	190	219
アトピー性皮膚炎	190	246
アレルギー性結膜炎	64	64
アレルギー性鼻炎	126	173
じんましん	145	161
その他のアレルギー疾患	62	61
何らかのアレルギー疾患	502	625
総数	1132	1771

表 46 家族のアレルギー疾患の状況（複数回答）

児の「診断あり」の疾病名	問 7 家族のアレルギー疾患					
	父のアレルギー疾患		母のアレルギー疾患		兄弟姉妹のアレルギー疾患	
	あり（人）	なし（人）	あり（人）	なし（人）	あり（人）	なし（人）
ぜん息	125	84	142	67	88	121
食物アレルギー	198	117	230	85	79	236
アトピー性皮膚炎	226	130	242	114	120	236
アレルギー性鼻炎	167	90	194	63	98	159
アレルギー性結膜炎	80	35	94	21	41	74
じんましん	150	91	178	63	74	167
その他のアレルギー疾患	69	36	74	31	31	74
何らかのアレルギー疾患	549	339	624	264	291	597
総数	1177	876	1430	623	624	1429

表 47 行政（都や区市町村）に対する希望 児と家族のアレルギー様症状の有無別（複数回答）

問 8 項目	問 7 家族のアレルギー様症状や診断の有無			
	児のアレルギー様の「症状あり」 または		家族のアレルギー様症状や診断の有無	
	あり		なし	
	人数	割合	人数	割合
1 都民に対するアレルギー疾患に関する知識や情報の提供	180	39.8	1156	47.0
2 保健・福祉・教育関係者に対する知識や理解の向上のための取組	155	34.3	971	39.5
3 禁煙・分煙など、たばこ対策の徹底	245	54.2	1381	56.1
4 食品表示の監視の徹底	231	51.1	1209	49.1
5 都民に対する医療機関に関する情報の提供	210	46.5	1155	47.0
6 その他	15	3.3	209	8.5
総数	452	100.0	2460	100.0

表 48 医療機関に対する希望 児と家族のアレルギー様症状の有無別 (複数回答)

問 9 項目	児のアレルギー様の「症状あり」 または 問 7 家族のアレルギー様症状や診断の有無			
	あり		なし	
	人数	割合	人数	割合
1 くすり、治療法などの十分な説明と相談	233	51.5	1437	58.4
2 夜間や救急対応の充実	318	70.4	1628	66.2
3 専門医への紹介など、病院どうしの連携の強化	241	53.3	1456	59.2
4 保健・福祉・教育関係者などへの指導	101	22.3	636	25.9
5 専門医療機関の増加	171	37.8	925	37.6
6 その他	8	1.8	88	3.6
総数	452	100.0	2460	100.0

表 49 保育園・幼稚園・認定こども園に対する希望 児と家族のアレルギー様症状の有無別 (複数回答)

問 10 項目	児のアレルギー様の「症状あり」 または 問 7 家族のアレルギー様症状や診断の有無			
	あり		なし	
	人数	割合	人数	割合
1 アレルギー疾患に関する職員の理解と知識の向上	240	53.1	1579	64.2
2 他の児童への教育	165	36.5	825	33.5
3 相談体制の充実	157	34.7	741	30.1
4 アレルギー対応食の提供	187	41.4	1013	41.2
5 アレルギーの薬の預かりや投与	147	32.5	1080	43.9
6 その他	5	1.1	69	2.8
総数	452	100.0	2460	100.0

表 50 施設・事業者(レストラン、食品製造販売業者等)に対する希望 児と家族のアレルギー様症状の有無別 (複数回答)

問 11 項目	児のアレルギー様の「症状あり」 または 問 7 家族のアレルギー様症状や診断の有無			
	あり		なし	
	人数	割合	人数	割合
1 わかりやすいアレルギー食品表示	294	65.0	1564	63.6
2 アレルギー対応メニューの充実	217	48.0	1185	48.2
3 禁煙・分煙場所の徹底	267	59.1	1570	63.8
4 おやつや清掃用具など、アレルギー商品の開発	140	31.0	823	33.5
5 その他	3	0.7	69	2.8
総数	452	100.0	2460	100.0

資料（調査票）

I お子様のアレルギー疾患についておうかがいします。

問1. 呼吸器症状についておうかがいします。これまでに、お子様に、セキこんだり息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」するなど、苦しそうな症状がありましたか？

1. はい →問1-1へ 2. いいえ →2ページの問2へ

【問1 で、「1. はい」とお答えの方におうかがいします。】

問1-1. 上記のような症状がはじめて起きたのは、何歳何か月ですか？

() 歳 () か月

問1-2. 上記のような症状はこれまでに何回ありましたか？

1. 1回 2. 2回以上

問1-3. この2年間に、上記のような症状がありましたか？

1. ある →問1-4へ 2. ない →2ページの問2へ

【問1-3 で、「1. ある」とお答えの方におうかがいします。】

問1-4. この1年間のお子様の状態について、以下の1から6までのうち、最も近い番号1つに○印をつけてください。

1.	この1年間は、「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が全くなかった。
2.	セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、年に数回、季節的にあった。ときに呼吸困難を伴うこともあったが、そのときだけ気管支を広げる薬（ β_2 刺激薬）を使い、短期間で症状は改善した。
3.	セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、月1回以上、週1回未満あった。ときに呼吸困難を伴うこともあったが、長く続くことはなく、日常生活が障害されることは少なかった。
4.	セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、週1回以上あったが、毎日続くほどではなかった。ときにその症状により日常生活や睡眠が障害されることがあった。
5.	セキこんだり、軽く息が「ゼーゼー」、「ヒューヒュー」したりする症状が、毎日あった。週に1～2回、その症状により日常生活や睡眠が障害されることがあった。
6.	治療を受けても上記5の状態が続いた。しばしば夜間に時間外受診し、入退院をくり返した。

問3-2. これまでに、食物アレルギーの原因（と思われる）食物を食べないように除去したり、制限したりしたことはありますか？

「1. 現在もしている」、「2. 過去にしたことはあるが、現在はしていない」とお答えの方は、制限をしている（制限したことがある）食物を、2ページの問3-1の枠内に記載の食物の番号でご記入ください。

1. 現在もしている	2. 過去にしたことはあるが、現在はしていない
（制限をしている食物（制限したことがある食物）の番号を記入してください）	
3. 今までにしたことはない	

問3-3. これまでに、食物アレルギーで出た症状はどのような症状でしたか？ あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

1. ぜん喘（ゼーゼー）・呼吸困難
2. 皮膚の湿疹・むくみ・かゆみ・じんましん
3. 目のはれ・かゆみ
4. 鼻水・くしゃみ
5. 口のはれ・かゆみ
6. 腹痛・下痢・おう吐
7. ショック症状（ぐったりする、眠ってしまう、呼んでももうろうとしている等）
8. その他 []

問3-4. 初めて食物アレルギーの症状が出たのは、何歳何か月ですか？

（ ）歳（ ）か月

問3-5. この1年間に、食物アレルギーの症状がありましたか？

「1. はい」とお答えの方で、その症状のうち、ショック症状（ぐったりする、眠ってしまう、呼んでももうろうとしている等）を起こした回数をご記入ください。

1. はい この1年間にショック症状を起した回数：（ ）回
2. いいえ

問3-6. お子様はこれまでに、「食物アレルギー」と医師に診断されたことはありますか？ 診断されたことのある場合は、その時期をご記入ください。

1. はい () 歳 () か月
 2. いいえ



問4. これまでに、お子様に次のアレルギー疾患の「症状」がありましたか？ また、この1年間に「症状」がありましたか？ 1から5までのそれぞれについて、あてはまる番号1つに○印をつけてください。

		これまで	この1年間
1	アトピー性皮膚炎 (皮膚の乾燥とかゆみを伴う湿疹をくりかえす)	1. ある 2. なし	1. ある 2. なし
2	アレルギー性鼻炎 (花粉症を含む) (くしゃみや鼻水、鼻づまりが長引く)	1. ある 2. なし	1. ある 2. なし
3	アレルギー性結膜炎 (花粉症を含む) (目のかゆみや充血が長引く)	1. ある 2. なし	1. ある 2. なし
4	じんましん	1. ある 2. なし	1. ある 2. なし
5	その他のアレルギー疾患	1. ある 2. なし	1. ある 2. なし

問5. お子様はこれまでに、次のアレルギー疾患であると医師に「診断」されたことがありますか？ 1から5までのそれぞれについて、あてはまる番号1つに○印をつけてください。

1	アトピー性皮膚炎	1. ある 2. なし
2	アレルギー性鼻炎 (花粉症を含む)	1. ある 2. なし
3	アレルギー性結膜炎 (花粉症を含む)	1. ある 2. なし
4	じんましん	1. ある 2. なし
5	その他のアレルギー疾患	1. ある 2. なし



問9. 医療機関に対する希望

1. くすり、治療法などの十分な説明と相談
2. 夜間や救急対応の充実
3. 専門医への紹介など、病院どうしの連携の強化
4. 保健・福祉・教育関係者などへの指導
5. 専門医療機関の増加
6. その他（上記以外のことで希望されることがありましたらご記入ください）

[]

問10. 保育園・幼稚園・認定こども園に対する希望

1. アレルギー疾患に関する職員の理解と知識の向上
2. 他の児童への教育
3. 相談体制の充実
4. アレルギー対応食の提供
5. アレルギーの薬の預かりや投与
6. その他（上記以外のことで希望されることがありましたらご記入ください）

[]

問11. 施設・事業者（レストラン、食品製造販売業者等）に対する希望

1. わかりやすいアレルギー食品表示
2. アレルギー対応メニューの充実
3. 禁煙・分煙場所の徹底
4. おやつや清掃用具など、アレルギー商品の開発
5. その他（上記以外のことで希望されることがありましたらご記入ください）

[]

記入もれがないか、もう一度確認してください。
ご協力ありがとうございました。



平成 21 年度

東京都アレルギー性疾患対策検討委員会乳幼児アレルギー疾患調査検討部会委員

(平成 21 年 4 月時点)

部会長	松井 猛彦	財団法人東京都保健医療公社荏原病院小児科部長
	赤澤 晃	国立成育医療センター総合診療部小児期診療科医長
	北林 耐	昭和大学病院小児科講師
	高橋 博則	東京都福祉保健局健康安全部環境保健課長

登録番号 (21) 445

アレルギー疾患に関する3歳児全都調査（平成21年度）報告書

平成22年3月発行

編集・発行 東京都福祉保健局健康安全部環境保健課
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 03(5320)4494

調査委託機関 株式会社 タイム・エージェント
東京都渋谷区円山町6番8号松木家ビル

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。
再生紙を使用しています。

